

1. 2013 年度事業の振り返りと総括

<プロキューブ全体総括>

2013 年度から、たかとりコミュニティセンターの事務局を FACIL に委託されたことによって、市民運動の原点に戻って足もとの野田北部地域とのつながりを再構築することに、プロキューブとしても具体的に関わりはじめました。夏祭りへの参加も再開して協力しました。

インドネシアでは、2012 年度から始まった JICA 事業に加えて、スマトラ島北部のシナブン火山の噴火被害によって避難所で生活を送る避難者と周辺の帰還住民を対象に、インドネシアのパートナーとともに災害ラジオ局を開設のための活動を行うなどの緊急事業も実施し、インドネシアでのネットワークを活かすこともできました。

外国にルーツをもつ子どもたちの活動では、これまでに培ってきた全国的なつながりを活かして、言語形成に焦点をあてて教育現場への提言事業を実施中です。日常的な翻訳／通訳事業の体制も、コーディネート業務担当者を増員して繁忙期への対応を強化することに加えて、コミュニティ通訳レベルチェック事業を受託し、これまでの経験で得た知見を活かすこともできました。2003 年から続けてきた医療通訳システム構築にむけたモデル事業は、FACIL 主導の活動から、ようやく病院も予算を組んで主体となったモデル事業へと発展しました。

そして、これまでのたかとりコミュニティセンター内のみならず長田区内でのつながりを活かす活動としては、国際交流基金主催のセミナーの機会を活かして、有志に呼びかけて、長田区役所の中長期計画への大切な視点として、多文化まちづくりに関する提言を行うこともしました。

このようなネットワークを活かした活動の広がりのおかげで、FM わいわいという道具の役割もますます多様化し、インターンやボランティアで関わってくださる方達もますます増えていきました。

一方、FM わいわいの「コミュニティラジオの運営に外国人が参画できない」という電波法との戦いは、引き続き優先していかなければならない運動ですし、東日本大震災から 3 年を経て、継続してきた災害ラジオや移民コミュニティへの支援活動は、これからも連携していく予定ですが資金がそろそろ枯渇してきていることなど今後のことを考えていかなければなりません。FM わいわいと FACIL の統合の凍結状況の今年度は、関わる方達との情報共有や意見交換の場を何度かもって今後の方向性についての試行錯誤も続いています。

このように大切な活動への課題も残してはいるものの、プロキューブの活動は今年度もさまざまな展開をすることができました。それぞれの形で多くの支えてくださる方たちへの協力のおかげです。

今後のプロキューブの活動体制は、FM わいわいがどのような位置づけになるのが適切なのかを、多くの関わってくださる方たちとの具体的な模索を続ける時間の延長線上にみえてくるものだと思います。

阪神・淡路大震災から 20 年を迎えるにあたって、私たちが続けてきた活動が、地域に住むひとりひとりの方々にとっても自分たちの活動だという主体性を感じていただけるように、さらに発信をし、新しい世代へとつないでいきたいと思っています。

(グループ代表 吉富志津代)

1) 基本理念の確認

多文化共生社会の推進という共通理念に基づき、特定非営利活動法人たかとりコミュニティセンターのネットワークの中で、カトリックたかとり教会に拠点をおき、翻訳・通訳、多言語WEB・DTP、多言語音声制作、多文化・多言語のコミュニティFM放送、外国にルーツを持つ住民のサポート活動などの事業に取り組む公益活動団体の運営支援および連携の強化に努め、質の高い共同事業の展開をとおして、外国出身の住民も含む地域の多様な立場の人々が誰も排除されることのない、安心できるまちづくりに寄与することを目的とする。

2) 各団体の概要

■特定非営利活動法人 多言語センターFACIL

地域ニーズに根ざした翻訳・通訳事業に38言語で対応。また、「世界の食」のデリバリーなどの多文化なコミュニティビジネスを展開。医療通訳システムの構築にむけた取り組みは13年を経て、ようやく神戸市や兵庫県内の病院も主体的に関わる形が見えてきた。ループ内の団体との連携事業などの企画／実施によって、グループ全体の特性を活かし、持続可能な市民活動を支える事業部門としての役割を担う。

■FM わいわい (特定非営利活動法人エフエムわいわい)

民族、国籍などの違いを越えて10言語で放送する多文化・多言語コミュニティ放送局。2011年度より、放送事業の運営母体を株式会社からNPO法人へ移管。現在は、これまでの知見やネットワークを活かして、インドネシアでJICA草の根事業にも取り組む。

■ワールドキッズコミュニティ

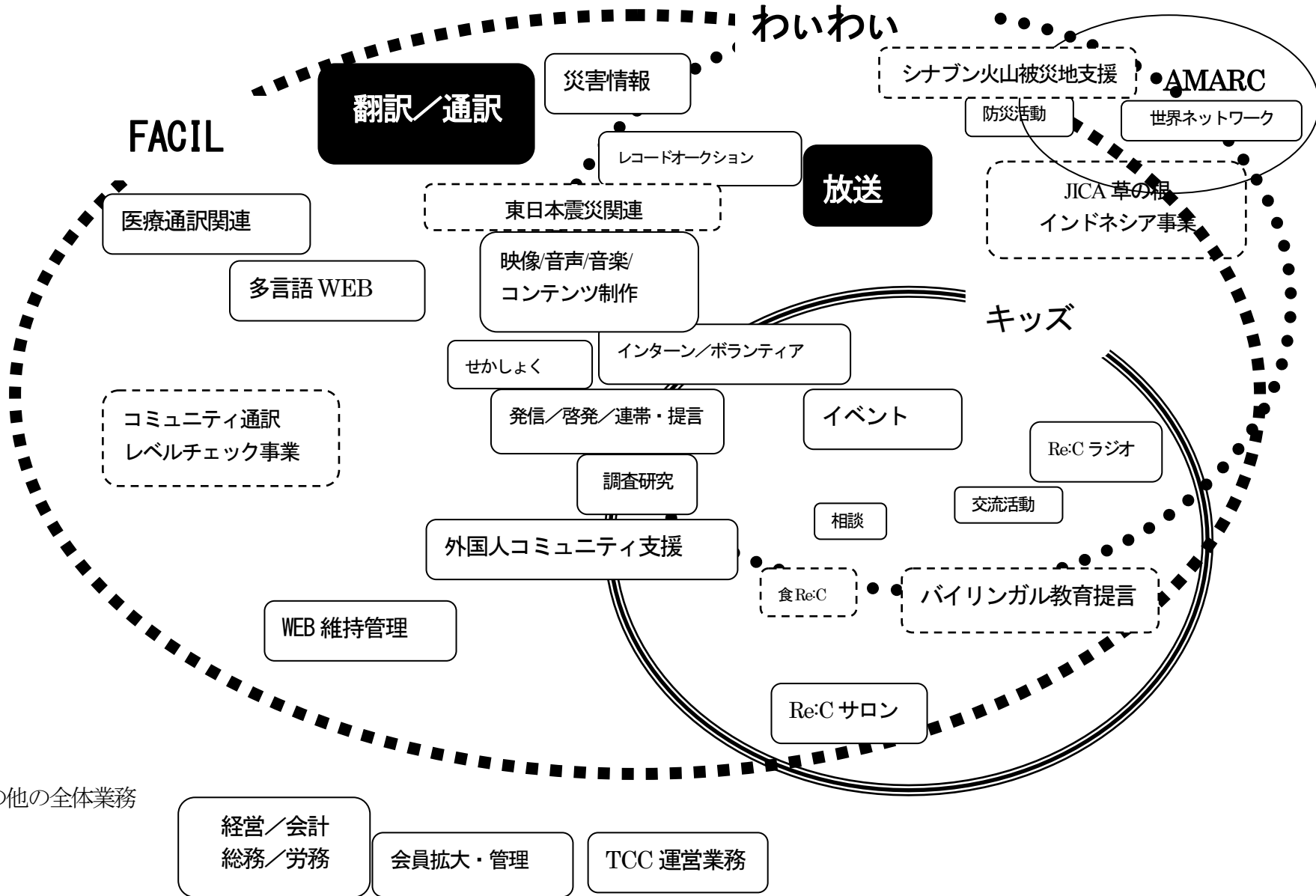
多文化な子どもたちを取り巻く環境の改善に取り組み、誰もが自分のアイデンティティに自信をもてるような青少年の発信／育成支援に取り組んでいる。現在は、バイリンガル環境で育つ子どもたちの言語形成に関する活動を展開中。

■世界コミュニティラジオ放送連盟 (AMARC) 日本協議会

世界117の国・地域にある4000以上のコミュニティラジオをネットワークする国際NGO、AMARC (世界コミュニティラジオ放送連盟) の日本におけるワーキンググループ。国際連帯のもとそれぞれの地域において住民のメディア参加を促し、社会の民主化に貢献することをめざす。

3) 組織運営

<Pro3 事業図 2013>



多文化プロキューブについて



2007年5月、従来より同じミッションをかかげて活動してきた4団体が、ひとつのグループになりました。グループ名は「多文化 Pro3 (プロキューブ)」。「Pro3」は、「多くの市民が多文化なまちづくり活動に参加できる場を創出“Produce”するとともに、活動の専門性“Professional”を高め、社会を進歩的“Progressive”に変えていく集団」を意味しています。それぞれの組織、活動は継続しながら、さらに連携を深め、より質の高い事業を構築していくとともに、ますます地域に根付いた活動を目指しています。

<<職員所属および担当リスト>> 2013年度 (2013年4月1日～2014年3月31日)

●多言語センターFACIL

- ・日比野 純一 (FM わいわい代表理事/AMARC 日本代表として、管理・運営補佐・インドネシア事業統括)
※FM わいわいが人件費充当
- ・田口 靖幸 (WEB/ICT 関連/放送業務など)
- ・村上 桂太郎 (管理・運営補佐/キッズ/ICT 関連/翻訳・通訳コーディネータ補佐/TCC 事務局業務など)
- ・安西 佐有理 (翻訳・通訳コーディネーター/FACIL データ管理など)
- ・李 裕美 (翻訳・通訳コーディネーター/医療通訳関連など)
- ・田村 真由美 (キッズ関連/インターン・ボランティアコーディネータなど)
- ・平岡 いつき (医療通訳関連/インターン・ボランティアコーディネータなど) ※2014年3月31日より雇用
- ・平野 由美子 (医療通訳関連/総務/会員管理/FM わいわい関連など) ※2013年5月より雇用

●FM わいわい

- ・金 千秋 (総合プロデューサーとして番組編成・放送・イベント関連)
- ・近藤まりえ (JICA 草の根インドネシア事業担当) ※2014年3月まで雇用
- ・岡戸 香里 (JICA 草の根インドネシア事業担当) ※2014年1月16日より雇用
- ・古寺 瑞代 (会計/労務全般) 草の根事業担当として

●ワールドキッズコミュニティ

- ・稲田靖子 (データベース/FM わいわい・Re:C 関連など) ※2014年2月28日まで雇用

●雇用外

- ・吉富 志津代
(FACIL 理事長/ワールドキッズコミュニティ代表/FM わいわい代表理事/グループ代表として、管理・運営全般)

★東日本大震災災害支援活動に関しては、全員で分担して関わった。

4) 連結決算および事業図の説明

●連結決算について

多文化プロキューブの3団体（多言語センターFACIL、ワールドキッズコミュニティ、FM わいわい）では、一括した経営を行っているが、各団体の決算も存在するため。それらを統一して全体の決算の状況を確認するため、毎年連結決算を出している。各団体の決算のうち、3団体間の支払い等を相殺したものである。人件費については、FACIL が常勤職員 6 名分、キッズが非常勤職員 1 名分、FM わいわいで常勤職員 3 名+非常勤職員 1 名分を、それぞれ負担（2013 年度末時点）。

●事業図について

団体は○で、プロジェクトは□で表記する。点線の□は任期付の事業とし、○の大きさは、年間の事業費および事業に関わる人数を考慮したボリュームを表す。多くのプロジェクトが三つの団体の重なり合う部分で実施されており、全体の事業費の基盤を支えるのが翻訳/通訳事業および多言語 WEB 制作であることがわかる。

今年度の特徴として、提言事業に力をさき、コミュニティ通訳スキルレベルチェック事業、バイリンガル教育提言、医療通訳事業に関わる緊急雇用事業、インドネシア・シナブン火山支援事業などのボリュームの大きい受託/助成金事業を実施した。

東日本大震災以降は直後から「多言語」「コミュニティラジオ」「移民コミュニティ」を切り口に、誰も排除されることのないよう支援活動を開始し、復興の状況に応じた連携活動を継続した。

2. Pro3の事業に関する事項

(1) 翻訳／通訳事業

<業務総括>

コーディネーター体制を変更し、翻訳通訳の実施件数が大幅に増加して、これまで以上に多様な業務に当たることができた年度であった。

全体として実施件数、金額ともに、前年度を大きく上回った（346件 3493万円。2012年度 298件 2281万円、11年度 216件 1707万円、10年度 297件 3439万円 [前年・前々年度より実施の業務含む]）。

依頼や問い合わせの内訳は例年どおり、繰り返し翻訳通訳を発注する依頼者（リピーター）が中心の一方（一般翻訳通訳受注案件中、240件超）、新規にFACILの存在を知った企業・団体、自治体、個人も目立った。その情報源は、Webサイト、報道、相談窓口・自治体などである。なかでも、既存の依頼者を含む各種窓口または個人からの紹介とみなされる問い合わせが、受注案件の約70件を占めている。FACILの実績や対応が信頼されている結果といえよう。

実施内容では、一つの課題に長期的な取り組みが必要な案件（裁判等の通訳、新たな制度や恒久的プログラム・施設に関する多様な資料翻訳など）、数日間連続の通訳、大部や多言語一括の翻訳も目についた。FACILの翻訳・料金・サービスが適正なものとして評価されている証とも考えられる。

しかし、NPOとしてのミッションや中立性、地域に根差した活動などが理解されたり好感をもって迎えられていると感じる一方、競争入札や相見積の単なる「一業者」と見なされている場合も多く見受けられた。これはFACILが「ボランティア団体」としてではなく、翻訳通訳のプロとして認められているということであるが、プロとしての仕事を心掛ければFACILが「一業者」ではなく社会的なミッションを持って活動している団体であるという自覚と矜持を持ち、社会にもアピールしていく必要性を感じた一年であった。

それと並んで顕著な課題であったのは、競争入札案件が受注の成立如何にかかわらず増加している状況（2013年度実施案件中では約50件）とも関連して、依頼者と登録者いずれの側でも、コスト・時間面の意識と同時に高い完成度を希望する傾向が年々高まっていること、さらにはニーズの多様化、業務内容の細分化や煩雑化である。翻訳通訳の質の確保や向上をはかり、外部・内部と的確な情報共有を行うことが求められたのはいうまでもないが、FACILがミッションの基本をふりかえり、その特色や資源を活かしながら、依頼者・翻訳通訳者・コーディネーター三者がともに納得できる事業を円滑に持続していくために、受注への姿勢や実施上の対応策について、前年度以上に試行錯誤をすることとなった。

資源の重要な部分である翻訳通訳者の登録状況としては、2012年度と同じく新規の応募を多数受け付けたが、既存の登録者も含めて、人材をいかしきれていないのが実情である。特に2013年度はコーディネーター体制の変更と、依頼や問い合わせが大幅に増加、高度化したことで一層、常に登録者の最新の連絡先や稼働可能状況を把握したうえで、能力や意欲を仕事にマッチングさせたり、FACILやそのミッションの周知に繋げる方策の必要性が高まった。今後はさらに登録者とのつながりを強化できるよう、セミナーの開催や情報共有・発信媒体の活用（SNS、メールマガジン等）などに積極的に取り組む必要を実感した一年であった。

FACILの強みの一つとして、多言語での印刷レイアウトやWebサイト・音声データ作成が、翻訳と共にワンストップで実施可能であることを2013年度も掲げてきたが、実施件数は限られていた（9件）。理由としては近年、安価かつ専門的・高度な多言語対応が可能な一般印刷会社・多言語サービス業者等が多く見受けられるようになったことのほか、多言語版媒体に先行する日本語版を作成した業者がデータを外部に出さないことがある。しかし限られた数とはいうものの、制作体制（スタッフ・登録者の人員数・稼働可能時間、設備）の限界や、翻訳を伴わないDTP案件やWeb制作の案件、自主事業のための制作作業と並行して、短期での納品を求められ、年度末をはじめとする繁忙期に作業が集中することが多い多言語の印刷レイアウトやWebサイト・音声データ作成業務を受注するためには、他団体との提携や外注の可能性を見積もり段階から考えておくなど、先手先手の対応が求められた。そのかわり、実施した案件については依頼者に確実に好評を得ており、語学スキルチェックの音声問題データ作

成（日本語、英語ナレーション）といった新たな取り組みにも、幅広い人材のネットワークを駆使して応じることができた。また、前述の受注数の統計外で、翻訳の依頼者から結果的に製作上のアドバイスや他業者のフォローを依頼される例があったり、日本語のみの Web サイト作成・更新を継続的に受注している状況（(5)コンテンツ事業参照）からみても、単に「多言語データが扱える作業者」となるのではなく、今後もひきつづき、多言語情報発信に知見の蓄積ある NPO としての信頼や特色を活かしながら、対応可能な範囲で事業を継続できる分野や方法の模索、依頼者（自治体等）への平素からの働きかけなどを行う必要があると考えられる。

事業の詳細については以下に記載。

■概況、課題

・コーディネーター体制の変更

安西、李に加えて村上、平野、田村もそれぞれのプロジェクトを持ちつつ、常時、翻訳通訳コーディネートを兼務して担当することになった。夏頃から主に OJT による新コーディネーターの育成を行い、繁忙期に向けて常時 5 人体制で稼働できるようになった。2012 年度を大きく上回るコーディネート件数をこなす経験を経て、複数名で案件を担当する仕組みは徐々に改善されつつある。今後は、質の確保と更なる向上が目標。

・コーディネート件数

2012 年度より 47 件の増加（セミナー企画・講師等含み、助成事業および無償翻訳は除く）。

・自治体関連の翻訳通訳

予算確保のための概算見積りや実施方法のアドバイスの依頼に応じても、競争入札の結果落札できないこともあった。競争入札については、入札案件を積極的に探し出して応募することができず、「全省庁統一一般競争（指名競争）参加資格」などを活用できていない一方、地方自治体から入札参加や業者登録を案内されることが、新規・継続ともに中心になっている。

・継続および新規の多様な翻訳通訳を、全国各地から受託。国内向け・国外向けとも、専門性の高い分野（学術、医療、工業等）、教育、地域の観光、日常生活に結びついた案件まで多岐。比較的長期・出張での通訳や、稀少言語の翻訳にも対応した。

・例年の、年度末に中・大型を含めた各種案件が集中する傾向とは異なり、秋口に大型案件が 2 件（公的個人認証サービス都道府県協議会と自治体国際化協会）重なった。その後、年度末まで案件が引きも切らず集中し、新しいコーディネート体制による業務の分担や連携を向上させるよい機会となった。

・通訳は、神戸市内・近隣からの依頼・実施の他、北陸地方への同行出張や、東京方面からの依頼・実施（Web サイトの効果）も複数あった。

・例年同様、自治体を中心に、競争入札案件の見積り依頼が堅調に入ったが、結果として受注できない案件が多数あった。相見積り制度により価格破壊が進む中、精度の高い翻訳通訳を維持するために方針の検討が必要。

・2013 年度に特徴的な事業については、下記◎を参照。

①通常翻訳事業

■行政（国際交流協会・企画調査会社・印刷会社等を経由した受注含む）

◎公的個人認証サービス外国人住民対応に係る翻訳関連の翻訳（公的個人認証サービス都道府県協議会）

◎外国人住民への住民基本台帳制度適用（住基カード等）に係る翻訳：自治体窓口での対応想定会話集・説明文等（総務省）

◎防災関連：生活ガイド・防災マップ（伊丹市）、ヘルプカード（宮城県）など

その他継続：

《住民向け生活情報等》県紹介冊子（岩手県）、就学援助申請書類（神戸市）、子育てガイドブック（神戸市中央区）、進路選択ガイダンス資料（大阪府）、外国人県民共生会議資料（兵庫県）、子育てガイド部分更新（西宮市）、健康情報ガイド部分更新（名古屋市）、生活情報広報（丹波市）、神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）リーフレット、「平和と人権を守る都市宣言」入

力(交野市) など

《国際交流等》海外技術協力事業研修用資料(香川県[農産品加工]、姉妹都市交流関連(三田市[ビデオメッセージ、訪問団プロフィール、友好確認書等])

新規:《住民向け生活情報等》行政ハンドブック(奈良県斑鳩町) など

《観光・産業誘致、国際交流・支援》訪日研修用資料(神戸市[水道]、書状 など

■**その他公的機関(国際交流協会、学校、病院等)**(印刷・企画会社等を経由した受注含む)

◎自治体国際化協会(CLAIR)「和 Life ガイド(モバイル端末用多言語生活情報)」原稿作成・翻訳、アプリ説明文

◎医療・医学:医療系大学周年記念誌、大学病院ホームページ、病室利用ガイド

◎防災、生活情報:「暮らしの安全・安心ミニ情報」改訂(ひょうご国際交流団体連絡協議会)、暴力団追放兵庫県民センターホームページ、妊娠・出産ガイド(山口県国際交流協会)、日本の学校ガイダンス ネイティブチェック(京都府国際センター)、奨学生募集要項改訂(滋賀県国際協会、継続) など

◎その他 観光、国際交流・支援等:訪日研修用資料(水環境)、兵庫県訪日教育旅行案内、神戸市立相楽園リーフレット、日本語教室チラシ、日本語学校ホームページ など

■**一般企業・事業者、NPO、メディア**(各種公的団体向けの受注含む)

◎母語教育支援ホームページ

◎有馬温泉関連:温泉施設の館内掲示・広報映像台本等、ガイドブック

- ・国際スポーツ大会会場候補地視察関連冊子
- ・防災関連関連:「防災学習シート」・防災アンケート調査票
- ・神戸市内・近隣商業施設/レジャー施設/交通機関 PR 素材・施設内掲示物
- ・工業製品カタログ
- ・歌集
- ・会社概要、商業登記(企業全部事項証明)、契約書 など

■**個人**(自治体等を経由した受注含む)

一般:身分証明全般(戸籍、住民票)、各種証明(出生、婚姻、死亡、在職、無犯罪、卒業・資格等)、医療(診断書、明細書)、経済状況(給与明細、銀行入出金記録)、不動産関連、入管手続き関連(事由書、理由書等)、学校関連 など

学術関連(民族学・心理学・まちづくり・防災・メディア等):論文、論文要約 など

その他:句集、環境教育絵本 など

②**Web/音声・映像/印刷につながる翻訳、ナレーション等**

■**翻訳および Web/印刷公開用レイアウト一括実施:**外国人のための生活ガイド(姫路市・ポルトガル語)、行政情報(丹波市・英語、中国語、ポルトガル語、タガログ語)、「わがまち推進計画」冊子(八尾市・英語、中国語、韓国語)、観光施設 PR 資料(企業・中国語繁体字)、加工食品チラシ(企業・ロシア語) など

③**通訳、語学講師等の派遣事業**

・**公的機関等** ベトナム・ダナン病院看護師訪日研修関連通訳(神戸国際協力交流センター他)、天津市教育スポーツ交流団アテンド通訳(神戸市)、公開セミナー「多様性を活かしたまちづくり・ひとづくり」神戸市長田区編通訳(国際交流基金)、海外自治体からの表敬訪問通訳(神戸市・ベトナム ハナム省、インドネシア スラバヤ市)、姉妹都市訪問団受け入れ通訳(三田市)、アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム フィールド・トリップ通訳(国際文化会館)、ブラジルパラナ州経済使節団通訳(兵庫県)、神戸港観光案内所での通訳(神戸国際観光コンベンション協会) など

・**一般企業等** テレビ番組取材インタビュー映像通訳・編集補助(ベトナム、ハイチ)、見本市ブース待機、韓国安全基準調査官検査の通訳、ビジネス会議、商談、労働問題交渉通訳 など

- ・**法律・警察関連** 離婚調停手続、弁護士接見 など(個人、弁護士事務所より受注)
- ・**NPO、教育・学術関連等** 大学訪日研修関連通訳(スリランカ防災教育、ネパール水環境)、第9回移住連全国フォーラム神戸通訳、「防災・復興まちづくりとコミュニティラジオの底力」フォーラム通訳、留学生向け防災関連講義・調査通訳、「国境を越えたまちづくりセミナー」通訳、海外アクティビスト/著述家トークイベント通訳、「ビッグイシュー」日本創刊10周年記念イベント通訳 など
- ・**個人** 神戸等観光ガイド・アテンド、親族間・個人の話し合い、学校懇談会、医学研究者への取材音声聞き取り(翻訳書きおこし)、運転免許更新同行 など
- ・**語学講師** 兵庫県警夏期集中語学講座(タイ、越、韓、葡、西。言語数は2012年度の3言語より増加。神戸YMCAより受注)

④医療通訳事業(調査、発信啓発)

(1)兵庫県重点分野雇用創出事業「医療通訳を活用した外国人県民への支援事業」(新規雇用1名、予算:300万円)

*兵庫県内医療機関などへの医療通訳の普及説明

- ・兵庫県立塚口病院→単発ベースでの実施決定、神戸大学医学部附属病院→実施を検討中
- ・神戸常盤大学 看護学科一年生 外国語コミュニケーションII 出張授業講師(2014年1月11日@たかとりコミュニティセンター/李)
- ・兵庫県医療ソーシャルワーカー協会第9回実践発表会にて特別報告「地域医療における医療通訳の必要性と重要性～あなたの病院に「外国人」の患者さんが来ました」(2014年3月8日/李)

*医療通訳PRセミナー開催

(医療通訳の説明会 地域医療における医療通訳の必要性と重要性～あなたの病院に「外国人」の患者さんが来ました)

- ・2014年1月24日@篠山市民センター(NPO法人篠山国際理解センターとの共催)
- ・2014年3月28日@兵庫県国際交流協会セミナールーム(協力:公益財団法人兵庫県国際交流協会)

*医療通訳ブラッシュアップ勉強会

- ・第1回&第2回(3月8日)/講師:尾上 皓美(中国語通訳者)/内容:DV、虐待ケースの医療通訳 vol.1(背景知識と心構え)& vol.2(演習)
- ・第3回(3月22日)/講師:小松真奈美(英語通訳者、医療英語講師)/内容:医療通訳で日本人が間違いやすい英語表現、医療通訳者として心がけること
- ・第4回(3月22日)/講師:林田マリトニ(タガログ語通訳者)/内容:医療通訳の準備で大切なこと/フィリピンと日本の医療文化の違い
- ・第5回(3月29日)/講師:大城温子(西市民病院看護師、ベトナムにて看護師経験2年)/内容:病院で通訳者として働くときの注意/ベトナムと日本の医療文化の違い
- ・第6回(3月29日)/講師:中萩 エルザ(ポルトガル語通訳者)/内容:ブラジルと日本の医療文化の違い
- ・第7回(3月29日)ファシリテーター:吉富志津代(多言語センターFACIL代表)/内容:「医療通訳者の身を守る10か条」を作ろう!

*医療機関向けリーフレット「医療通訳派遣のしくみ」1000部&患者さま用「医療通訳利用の手引き」8言語(日、英、中、韓、ポルトガル、スペイン、ベトナム、ロシア)制作

(2)山中栄子メモリアル基金(2014年6月まで)

寄付15万円を受け、在住外国人コミュニティの情報紙、ニュースレターに医療通訳の広告を掲載(関西ブラジル人コミュニティ、ひょうごラテンコミュニティ、ベトナム夢KOBE)。またFMわいわいで医療通訳CFを日本語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語バージョンを制作し放送する。他に医療通訳チラシの増刷も行う。

(3)医療機関における外国人患者受け入れ環境整備事業における診察時の患者向け説明資料や同意書の標準化に関する助言および情報提供

厚生労働省の上記整備事業に協力している一般社団法人ジェイ・アイ・ジー・エイチ(JIGH)に、これまでの経験や知見を提供(5万円)

⑤相談機関等での面談・電話通訳、医療通訳

(1)医療通訳モデル事業

*神戸市内の協定病院（神戸市立医療センター中央市民病院、西市民病院、西神戸医療センター）が医療通訳謝金7割を負担をするモデル事業の3年目。2013年度は全83件（内4件キャンセル。中央市民53件、西市民26件、西神戸医療センター4件）。関係者による医療通訳第2回検証会議を実施（2014年2月6日）、昨年度に引き続きコーディネイト費に代わる年会費制を提案。モデル事業実施機関をあと2年延長し（2016年度まで）、モデル事業実施中は中央市民と西市民の年会費はまとめて市民病院機構が負担し、西神戸医療センターには単発で1件ごとにコーディネイト費を加算し請求することになった。

*Kobe International Medical Foundation（KIMF／神戸万国医療財団）より寄付50万円。協定外病院への派遣の医療通訳謝金7割支給、生活保護受給者の医療通訳費免除、遠方から派遣の通訳者の交通費補助、係るコーディネイト費に対するもの。派遣件数全65件（内2件キャンセル）。西宮市国際交流協会や明石市福祉課、個人の方からのご依頼。医療通訳利用継続希望の声多数。

(2)東大阪市男女共同参画センター「イコラム」多言語相談業務 継続して契約受託。通訳実施は無し。

(3)兵庫県立女性家庭センター 外国人相談者に係る通訳 1件2回実施（中国語）。

(4)神戸市介護保険コミュニケーション・サポート事業 2012年度より継続して、契約受託（中国語）。登録通訳者「介護保険コミュニケーション・サポーター」3名。サポーター派遣実施は無し。契約外の言語でボランティア通訳紹介1件。

⑥緊急時の翻訳通訳事業

*神奈川県（有償） 「災害時・非常時多言語緊急情報翻訳業務」受託契約を継続。通訳実施は無し。

⑦コミュニティ通訳・翻訳ボランティア関連事業

(1)通訳翻訳ボランティア関連講演、セミナー

とんだばやし国際交流協会等。（公財）神戸市国際協力交流センターからの受託では、例年開催の災害時通訳翻訳ボランティア研修の企画・講師派遣に加えて、外国人市民および近畿圏の地域国際化協会登録ボランティアを対象とする「防災エクスペリエンス・ツアー」（於 神戸市民防災総合センター）の企画、オリエンテーション、ワークショップ担当も行った。

(2)語学スキルチェック事業

（公財）大阪府国際交流財団の公募審査を通過して、「コミュニティ通訳・翻訳ボランティアにおける語学スキルレベルチェック事業」を受託（対象言語 日本語・英語、260万円）。同財団の事務局および多文化共生事業、日本語、語学等の専門家から成る推進委員会による監修のもと、チェック問題作成（通訳問題シナリオ、翻訳問題文、訳語リストなど付随素材の執筆、翻訳、ナレーション録音）、評価指標と記入シートの作成、ボランティア・志望者向けのスキルチェック1回、スキルチェック実施を検討する自治体・団体担当者向けガイダンス1回を実施。成果物として、実施ガイド冊子と別添問題集を取り纏めた（2分冊・約300頁、音声・文字データ素材所収CD-R1枚付属。同財団と実施団体のみに限定配布）。問題や指標の作成過程では、外部団体や専門家へのヒアリング、サンプルテストも行った。

多言語センターFACIL 2013年度(4月～3月) 一般翻訳通訳実施状況

※4月1日～3月31日の間に受注/納品完了した、医療通訳、相談機関/窓口通訳以外の案件(研修講師の一部、語学スキルチェック関連業務含む)

依頼者	件数	金額
行政	40	¥12,206,075
学校・病院・その他施設	16	¥1,218,875
民間(企業,団体)	204	¥19,495,672
個人	86	¥2,009,309
合計	346	¥34,929,931

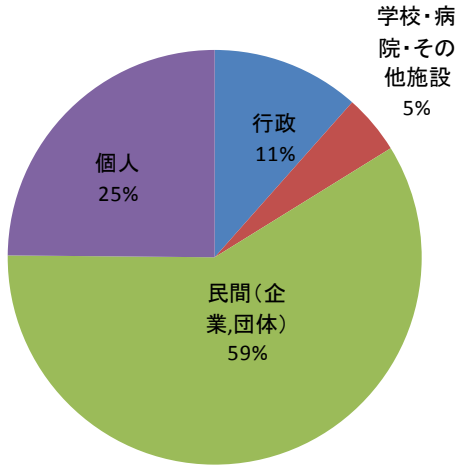
(参考:2012年度)

50	¥5,937,087
16	¥1,084,040
167	¥15,131,535
65	¥655,891
298	¥22,808,553

依頼言語	件数	(2012年度)
英語	254	170
韓国・朝鮮語	70	65
中国語(簡)	55	57
中国語(繁)	32	12
中国語(普通話)	3	3
スペイン語	47	48
ポルトガル語	47	30
ベトナム語	40	38
フランス語	22	13
タイ語	21	30
ロシア語	20	19
タガログ語	19	19
インドネシア語	16	6
ドイツ語	14	7
アラビア語	5	1
イタリア語	3	0
クメール語	2	2
シンハラ語	2	1
ミャンマー語	2	0
ネパール語	2	0
ウルドゥ語	1	3
フマン(オランダ)語	1	1
クレオール(ハイチ)	1	0
マレー語	1	0
ラオス語	1	1
合計	681	他4言語含め530

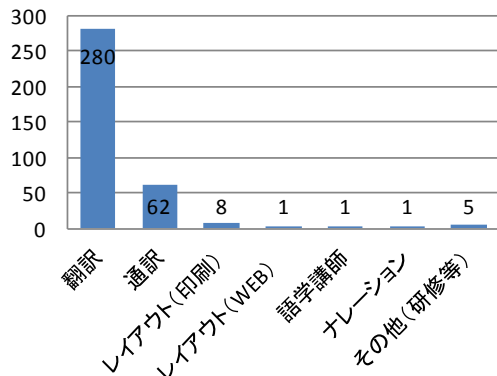
*他、やさしい日本語含む日本語業務(19件)あり

依頼者(件数別)

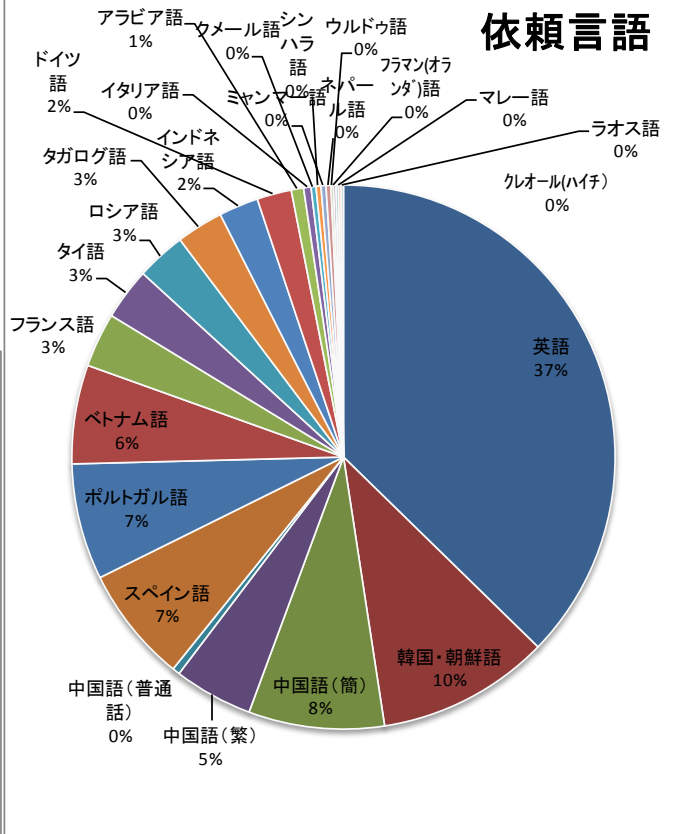


依頼内容	件数	(2012年度)
翻訳	280	227
通訳	62	60
レイアウト(印刷)	8	10
レイアウト(WEB)	1	2
語学講師	1	1
ナレーション	1	2
その他(研修等)	5	5
合計	358	307

依頼内容



依頼言語



特定非営利活動法人多言語センターFACIL 翻訳通訳等実施実績(2013年4月～2014年3月 受注価格5万円以上の案件のみ)

依頼日	区分	注文名	依頼者	言語
2013年10月	通訳	第4回ベトナム・ダナン病院看護師研修	(公財)神戸国際協力交流センター	ベトナム
2013年6月		第3回ベトナム・ダナン病院看護師研修	(公財)神戸国際協力交流センター	ベトナム
2013年9月		スリランカ防災教育プロジェクト	私立大学	シンハラ
2013年12月		天津市教育スポーツ交流団アテンド	神戸市教育委員会	中・北京
2013年12月		JICA草の根技術協力事業 講義、フィールドワーク随行等	私立大学	ネパール
2013年8月		ベトナムダナン研修責任者向け研修	神戸アジア都市情報センター事務局	ベトナム
2013年5月		第9回移住連全国フォーラム神戸	移住連全国フォーラム神戸実行委員会	英、西、葡
2013年5月		公開セミナー「多様性を活かしたまちづくり・ひとづくり」神戸市長田区編	(独)国際交流基金	英
2014年2月		観光アテンド(神戸・大阪・奈良)	個人(海外)	ドイツ
2014年1月		「防災・復興まちづくりとコミュニティラジオの底力」フォーラム	大阪大学	インドネシア
2013年11月		見本市ブース応接	企業	英
2013年8月		ベトナム取材映像(字幕編集補助)	企業	ベトナム
2013年11月		ハナム省人民委員会訪問団神戸副市長表敬訪問	神戸市	ベトナム
2013年7月		ブルーマウンテンズ市訪問団受入れ	三田市	英
2013年9月		大学防災関連講座言語サポート	個人(大学教諭)	英
2013年10月		大学防災関連講座言語サポート	個人(大学教諭)	英
2013年6月		安全基準調査官検査	企業	韓国・朝鮮
2013年9月		アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム フィールド・トリップ	(公財)国際文化会館	英
2013年4月		神戸半日観光 通訳ガイド	個人(海外)	英
2013年8月		公的個人認証サービスの外国人住民対応関連文書	公的個人認証サービス都道府県協議会	英、中(簡)、中(繁)、韓、西、葡
2013年7月		CLAIR多言語生活情報	(一財)自治体国際化協会 多文化共生部	英、中(簡)、韓、西、葡、仏、独、露、越、タイ、インドネシア、タガログ
2013年5月		医療系大学 周年記念誌	企業	英
2013年10月		大学病院ホームページ	企業	英
2013年5月		住民基本台帳事務手続き会誌集、住基カード取扱説明文	総務省	英、中(簡)、中(繁)、韓、西、葡
2013年10月		伊丹市生活ガイドブック、防災マップ	伊丹市	韓、葡
2013年12月		防災教材「防災学習シート」	(特)SEEDS Asia	英
2013年12月	研究者追悼文集原稿2種	企業	英	
2014年3月	就学援助申請書類	神戸市教育委員会	英、中(簡)、韓、越、西、葡、タガログ	
2013年5月	岩手県外国語版県紹介冊子Iwate A to Z	岩手県	西、葡	
2014年2月	神戸市水環境資料9種	神戸市	英	
2013年5月	工業製品カタログ	企業	英	
2014年1月	論文(メディア分析)	個人	フランス	
2013年5月	工業製品カタログ	企業	英	
2014年1月	温泉施設 館内掲示	企業	英、中(簡)、中(繁)、韓	
2013年11月	論文(メディア分析)	個人	フランス	
2013年6月	有馬温泉ガイドブック	(社)有馬温泉観光協会	英	
2013年10月	国際スポーツ大会候補地査察日程冊子	企業	英	
2014年3月	母語支援ホームページ原稿	関西母語支援研究会(兵庫県立大学)	英、中(簡)、韓、葡、西	
2013年11月	水処理施設資料	(一財)神戸すまいまちづくり公社	ベトナム	
2013年10月	「丹波市行政情報紙」、送付状、アンケート等	丹波市	英、中(簡)、葡、タガログ	
2014年3月	温泉施設 利用VTR台本追加とダイジェスト版	企業	英、中(簡)、中(繁)、韓	
2013年8月	外国人ママのための妊娠・出産ガイド	(公財)山口県国際交流協会	タガログ、露	
2013年9月	日本の水環境保全制作と制度	(一財)神戸すまいまちづくり公社	ベトナム	
2014年2月	外国籍県民支援事業 日本語教室案内チラシ	神奈川県立国際言語文化アカデミア	中(簡)、韓、越、タイ、タガログ、クメール、ラオス	
2013年6月	神奈川県「あーすぶらざー」リーフレット	神奈川県立地球市民かながわプラザ	英、中(簡)、韓、西、葡	
2013年9月	大阪府「進路選択に向けて」(平成25年度)	大阪府教育委員会	英、中(簡)、韓、西、葡、越、露、タガログ、タイ	
2014年3月	販売店契約書	民間翻訳事業者	英	
2013年7月	自費出版歌集(日英対訳版)	企業	英	
2013年12月	論文執筆用資料 抜粋	個人	フランス	
2013年10月	発表用原稿・プレゼン資料 ネイティブチェック	私立大学	英	
2014年3月	水道関連資料	神戸市	ミャンマー	
2013年6月	暴力団追放兵庫県民センター ホームページ	(公財)暴力団追放兵庫県民センター	英	
2014年3月	子育て支援ガイドブック「げんきっすバスポート」更新	神戸市	英、中(簡)、韓	
2014年3月	スポーツ関連展示施設 インバウンド用ホームページ	企業	英、中(繁)、韓	
2013年11月	兵庫県「外国人県民共生会議」資料	兵庫県	スペイン	
2013年7月	丹波市多言語行政情報紙	丹波市	英、中(簡)、葡、タガログ	
2014年3月	ミャンマー関連事業計画資料	企業	ミャンマー	
2013年5月	現代俳句 句集(多言語併記版)	個人	スペイン	
2013年11月	神戸下水道・こうべガス活用資料	(一財)神戸すまいまちづくり公社	ベトナム	
2014年2月	温泉施設 利用解説VTR台本	企業	英、中(簡)、中(繁)、韓	
2013年10月	病室利用ガイド	病院	英	
2014年2月	語学学校日本語コースホームページ	民間語学学校	英、中(簡)、西	
2013年9月	観光エリア(神戸市内)関連チラシ2種	企業	中・繁体字	
2013年4月	公共事業のための用地取得に関する契約書等	民間翻訳事業者	英	
2013年12月	加工食品PRチラシ	企業	英、中(簡)、韓、葡、露	
2013年6月	現代俳句 句集(多言語併記版)	個人	スペイン	
2013年12月	兵庫県訪日教育旅行案内	(公財)兵庫県国際交流協会	韓国・朝鮮	
2014年2月	語学学校 通学費補助金について	民間語学学校	英、中(簡)、中(繁)、韓	
2014年2月	多言語生活情報アプリ説明文	企業	仏、独、露、インドネシア	
2014年2月	観光エリア・施設(神戸市内)説明文章	企業	英、中(簡)、中(繁)	
2014年1月	相楽園パンフレット	(公財)神戸市公園緑化協会	仏、西、葡	
2013年12月	交通機関ホームページ更新用文言	企業(広告、看板)	英、中(簡)、中(繁)、韓	
2013年7月	患者さまの手引き	(特)多言語センター-FACIL	英、中(簡)、韓、越、西、葡、露	
2013年5月	神戸ハーバーランドホームページ(追加)	(特)デジタルサーカス	英、中(簡)、中(繁)、韓	
2014年2月	防災関連アンケート調査票	(特)SEEDS Asia	英	
2013年5月	名古屋市「外国人のための健康情報」更新	名古屋市	英、中(簡)、韓、西、葡、タガログ	
2013年6月	キエンザン省水環境研修用資料2種	(一財)神戸すまいまちづくり公社	ベトナム	
2014年2月	多言語による日本の学校制度説明 翻訳チェック、追加翻訳	(公財)京都府国際センター	越、タイ、タガログ、インドネシア	
2013年8月	自治会ガイド	企業	英、中(簡)、西、葡	
2013年8月	翻訳・レイアウト (WEB、印刷)	外国人のための生活ガイド「ハンズ オン ヒメジ」	企業	ポルトガル
2013年11月	翻訳・レイアウト (印刷)	HIA暮らしの安全・安心ミニ情報 改訂	ひょうご国際交流団体連絡協議会	日、英、中(簡)、韓、西、葡、越、インドネシア、タイ、タガログ
2014年1月	翻訳・レイアウト (印刷)	亀井小学校区「わがまち推進計画」翻訳およびレイアウト	八尾市	英、中(簡)
2014年2月	翻訳・レイアウト (印刷)	北山本小学校区「わがまち推進計画」翻訳およびレイアウト	八尾市	英、中(簡)、韓
2013年10月	翻訳・レイアウト (印刷)	スポーツ関連展示施設 台湾向けインバウンド用資料	企業	中・繁体字
2013年7月	翻訳・レイアウト (印刷)	加工食品PRチラシ	企業	ロシア
2013年6月	語学講師	公務員向け夏期集中語学研修	民間語学学校	韓、西、越、タイ
2013年5月	講演・研修講師	防災エクスペリエンス・ツアー オリエンテーション、ワークショップ	(公財)神戸国際協力交流センター	日
2013年11月	翻訳・レジョン・その他	災害時通訳ボランティア登録時研修 講師・ワークショップ指導	(公財)神戸国際協力交流センター	日
2013年7月	翻訳・レジョン・その他	コミュニティ通訳・翻訳ボランティアのための語学スキルレベルチェック事業	(公財)大阪府国際交流財団	日、英

(2) 放送

<業務総括>

市民一人ひとりが大切にされる社会づくりを目的に、神戸・長田での地域づくり、東日本大震災の被災地支援、そして国内外での防災の知識と経験の共有、といった活動を、多くの市民や団体の参加によって展開した。こうした活動は、カトリックたかとり教会、たかとりコミュニティセンター、多言語センターFACIL、そして多くの支援者の有形無形のバックアップがあって成立している。

事業の柱であるコミュニティ放送は、放送番組にさまざまな地域活動、社会活動をしているゲストの参加がさらに増え、ソーシャルメディア（Facebook）と連動してFM わいわいを取り巻く人々の有機的なネットワークが広がり、それが会員増加にも繋がった。音楽番組の有料放送やFM わいわいのホームページへの企業広告掲載といった営利事業も少しずつ広がっているが、声なき声を伝え、多文化なコミュニティづくりに貢献していくFM わいわいの豊かなコミュニティ放送事業は、現実的には多言語センターFACILのスタッフ4名の支えなしには成り立たない現実には変わらない。

一方、阪神淡路大震災からのまちづくりの経験をもとにコミュニティラジオを活用した災害支援、防災のまちづくりの知識と経験を国内外に広めていく事業は、FM わいわいの全事業の三分の二の規模（事業費ベース）に達した。この事業を通して、東日本大震災やインドネシアなどの被災地のコミュニティラジオの役割が社会に徐々に可視化されてきた。そして、やがてそれが、FM わいわいが阪神淡路大震災以降、社会的な実験を続けてきた「コミュニティラジオ活動」を社会的に支えていける仕組みづくりにつなげていくことが、求められている。

来年1月に阪神淡路大震災から20年を迎える。震災直後から、社会的な実験と言っても過言ではない、コミュニティラジオ活動を続けてきたFM わいわいのポスト震災20年の姿はまだ見えていない。昨年度の会員総会で、2007年度から実質的にFM わいわいの運営を支えている多言語センターFACILとの合併を凍結することになり、それを経てFM わいわいに関わる多様な立場の人たちと、「コミュニティラジオ局FM わいわいは今後も必要な存在なのか」「もし必要ならば、誰がどのように事業を続けていくのか」をテーマに、今後（阪神淡路大震災20年以降）のFM わいわいの姿を話し合う場を持つことをはじめた。コミュニティラジオ活動を終える、という選択肢も辞さずに次の姿の検討を続けているが、まだその後ろ姿も見えていない。

①コミュニティ放送事業

2013年度は、コミュニティラジオという放送の場を使ったネットワークがさらに広がった一年になった。それは、FM わいわいの番組出演を通じて人と人の輪を広げていくという、コミュニティラジオとしてはもっとも基本的な方式である。毎日の放送へのゲストを獲得、番組へ誘うことを通じて、事務局・ラジオパーソナリティが積極的にゲストと関わることの積み重ねによって人的ネットワークが拡大した。それがFM わいわいのFacebookと連動した新たな人々への告知、認知となり、より緊密なネットワークを構築したのは確かであり、これは現代のコミュニティラジオの新たな一面であるかもしれない。2014年6月現在、FM わいわいのFacebookファンページは購読者数1,332人。多くの読者が市民活動に関心のある方々である。

こうした活動の成果が如実に表れているのが、放送を通じた新会員の増加である。そして放送を通じた会員は、FM わいわいが行う東北の臨時災害FMや地域の被災地支援に携わる方々と重なり合い、それぞれが新たな出会いの場としての番組出演に繋がった。

そして放送ゲストリピーターの間で、自分たちも放送レギュラーとして、スポット、または番組を買い取って参加したい、という方々がこの中から少しずつだが現れ始めている。

この小さい芽に秘められた可能性を見抜き、どんなプランを練り、育てていくか。2014年度は、毎回の放送に漠然と携わることなく、常にアイデアやポイントを探りながら見つけていく、姿勢で臨みたい。

また、コミュニティラジオの「放送」という事業とともに、「放送外」での活動がこの「たかとり」での20年に向かおうとしている多様な活動の蓄積と重なり合い、様々なコーディネートを生んでいった。とくに、行政機関の方々が毎週、FM わいわいを訪問することで、地域にある多様性を実感として受け止めることとなり、「たか

とり」にあるエスニックコミュニティや連携する障がい者団体との繋がりを生むこととなった。例としては、知的障がい者や軽度痴呆の独居の人々への啓発やチラシ制作、外国人を対象とした結核検診、外国人にも配慮した防災訓練、災害研修、そしてその告知としての外国語でのチラシの制作、緊急連絡や災害時の多言語ホームページ制作、区役所職員の研修の場、地域・行政の多様なアーティストの紹介などである。

(ア) 少数者の声を伝える番組

(i) 月曜

- ・中国語番組「華声」のスタッフ交流として、ヨボセヨスタッフが「中国朝鮮族」の話をするなどのゲスト出演、東北の仙台市の中国人相談員や陸前高田臨時災害 FM のスタッフとの交流番組も制作。山中榮子メモリアル助成による東北被災地の番組制作は6月予定。番組を離れた交流が活発。
- ・奄美と沖縄の番組「南の風」月一沖縄、随時奄美 それぞれの特性で放送。

(ii) 火曜

- ・ブラジル番組「CANTA BRASIL」の低迷のため、2014年6月から一旦、音楽番組のみとすることに番組編成会議で決め、復活時には番組とするための暫定対応にした。

(iii) 水曜

- ・スペイン語番組「SALSA LATINA」をひょうごラテンコミュニティとして放送、WEB、ニュースレターの活用。パーソナリティの特性に負うところ大きい、かなりの聴取者がいる。この方式はエスニックコミュニティにも波及させたい。山中榮子メモリアル助成で多文化クリスマス会を開催、放送は6月のメモリアルマンズの予定。

(iv) 木曜

- ・障がい者の声を伝える「ふれてあれこれ好奇心アイ to アイズ」
- ・ベトナム語番組「チャオカックバン」MC ナムがナムチャンネルとして放送。

(v) 金曜

- ・タイ語番組「マイペンライ・サバイサバイ」バンコクとのスカイプ中継はいったん中止、アジア女性自立プロジェクト(AWEP)タイ担当スタッフとタイ人スタッフとタイ関係での人脈で実施。
- ・タガログ語番組「バヤニハン気仙沼 RADIO」不定期ではあるが継続、コミュニティは8月に「バヤニハン気仙沼フィリピン人コミュニティ」として独立、気仙沼市国際交流協会の一員となる。ラジオは、気仙沼臨時災害 FM でレギュラー番組として2014年3月から放送開始。それを FM わいわいで編集して2014年6月毎週火曜日夜8時から放送。

(vi) 土曜

- ・英語番組「SOUND WAVES」三グループが担当。番組のゲストから新しい番組担当者へと移行。
- ・多文化な子ども達の番組「Re:C ラジオ」ベトナムをルーツとする女子高校生二人が担当、ミキサーは事務局。
- ・日系ブラジル人女性パーソナリティによる「バモサベ180」

(vii) 日曜

- ・アイヌの文化を伝える番組「FM ピパウシ」第2日曜日の生放送を同時放送、第3週に再放送。2013年12月にスタジオである図書館から発火。幸いにもコーディネックはエクセルと FM わいわいの検証により無事であった。しばらく各種のアクシデントはあったが放送継続。
- ・「聴いてほしいの子ども気持ち」
- ・「朱良枝のイヤギチュモニ」この番組のクオリティは高く、韓国からの訪問者にも毎回評価される。東北の韓国語母語教室などに配布。定番として放送。
- ・「趙博のソリマダン」南相馬ひばり FM (南相馬臨時災害 FM) でも放送
- ・韓国・朝鮮の文化を伝える番組「ヨボセヨ」K チームにゲスト出演した巖美鈴が番組担当として参加。C チームにゲスト出演したフランシス大和がレギュラー担当者になった。

(イ) 地域コミュニティ番組

月	火	水	木	金	土	日
まちはイキイキきらめきタイム					KOBEなが たスクランブル	月2アイヌ 番組
・週替わり パーソナ リティ 多彩なゲ スト	・週替わり地 域コーナー ・長田社協提 供 ・関学提供	・地域担当コ ーナー ・多彩なゲス ト	・朝鮮半島 の文化紹 介 ・石巻から の移住者 月1担当	・週替わり臨 時災害FMと 電話中継 ・ハローなが た	・第2、第4 固定ゲスト ・多彩なゲス ト	中国語 スペイン語 英語番組の 再放送
南の風	VOICE OF FUKUSHIMA	ももっちおば ちゃんのラジ オお昼便	ふれてあ れこれ好 奇心アイ to アイズ	女川かこうけ んラジオ	TCC info まこちゃん のご近所談義 Re:C ラジオ バモサベ180 恋する! NPO	大震災を語 り継ぐ 聴いてほし いの子ども の気持ち
	笑顔の宅配便		Afternoon ねね		ゆうかりに乾 杯	朱良枝のお 話がいつば い
Find Your Music 世界の音楽					われら学校放 送部(8校)	趙博のソリ マダン
華声	Pinoy Rap バヤニハン気 仙沼 radio	<u>Salsa Latina</u>	<u>Chao Cac</u> <u>Ban</u>	マイペンライ サバイサバイ	JAZZ レコー ドタイムアー カイブ	ヨボセヨ
柳美里の ふたりと ひとり		とみちゃんの ラテンな日々 Salamat Malamda ri Indonesia	東京ラブ レター しゃべっ て×しゃべ って	移住者たちの ゆるゆるいく よ～ 若者たちの RADIO 会議 (隔週)	SOUND WAVES ミッドナイト ねね	ステーショ ンメッセー ジ ラジオフォ ーラム

(i) まちはイキイキきらめきタイム

番組担当スタッフの努力で番組にかなりのゲストがおいでになるようになった。リピーターも増えゲストとしての出会いから、何度かおいでになる中で、この場所が目指していることを実感として知り、そこから生まれた信頼関係で、会員として放送担当になるという流れが生まれてきた。また会員同士のネットワークが、また新たな人を招くという広がりへとつながってきている。市民の活用の中での実感から会員になるという流れができるようになった。たかとりコミュニティセンターに気軽においでいただき、ここでの空気感を実感していただく「場」、「出会いの場」として番組という使い方ができるようになった。

(ii) 買取番組・CM スポット

火曜 「アंकルトムの笑顔の宅配便」 担当スタッフから入会をいざなう機会となっている。

「週刊それいけ！ながた」 地域福祉・高齢者・若者・子どもをつなぐ大きな力。

水曜 「ももっちおばちゃんのラジオお昼便」 多様なゲストを招聘。

金曜 「ハローながた」毎週の公的機関との連携。長田区総合防災訓練での割り込み放送。

2014年2月21日金曜日「ハローながた」を長田区区役所からの割り込み放送で実施。防災訓練の時だけでなく長田区役所内での顕在化のための割り込み放送。

土曜 「ゆうかりに乾杯」2014年4月に5周年の集いをたかとりにて開催。ゲストならびに関係者を招き120名の参加。FMわいわいの地域を繋ぐ大きな力となっている。

「Afternoon ねね」挿入濱田治療院CM 放送曜日を毎週の土曜日から木曜日に移動。これもまた地域、教会、来訪者をつなぐ大きな力。濱田治療院の院主の所属団体JRPS（一般社団法人日本網膜色素変性症協会）が行う2014年9月の「世界網膜の日 in 兵庫」で番組内協力予定。

(iii) 被災地の今を伝える番組

月曜 「柳美里のふたりとひとり」南相馬災害FM

火曜 「VOICE OF FUKUSHIMA」

木曜 「しゃべって×しゃべって」大槌災害FM

金曜 「女川かこうけんラジオ」女川災害FM

「移住者たちのゆるゆるいくよ～」 「若者たちのラジオ会議」南相馬災害FM

12時10分から電話中継

第1 富岡町災害FM、

第2 大槌災害FM、

第3 亶理災害FM

第4 気仙沼災害FM

日曜 「趙博のソリマダン」南相馬災害FMへ提供

(ウ) 特別番組

(i) ステーションキャンペーン

2013年度のステーションキャンペーンは、「被災地からの声」、特に福島の実況を伝えるため「VOICE OF FUKUSHIMA」を再編集して放送した。

(ii) 「いつでもどこでも防災教育」

ユニバーサルデザインを視点を置いた防災番組というコンセプトで、インターン生の提案から生まれた番組。ユニバーサルデザイン研究会につなぎ、パネルも制作し、さまざまな場面での活用につなげる。制作が間に合わず次年度に持ち越し。

(iii) 年末年始特別番組

2013年12月29日～1月3日放送時間は12:00～18:00

(iv) 「1.17KOBEに灯りをinながた」

2014年「1.17」会場から12時から22時まで実況生中継放送。被災地とのスカイプ中継。東日本の3年間の状況を伝えると共に、神戸での3年間の状況を今の人々に伝える番組構成。

(エ) 連携番組

(i) 大学との連携

関西学院大学総合政策学部山中速人研究室の年間授業の一環として2年生、3年生、4年生の春と夏に特別番組を放送した。

(ii) インターネットラジオFMGIGとの連携

地域での被災地支援イベントのUStreamによる中継を行った。

(オ) 番組審議委員会

放送法に従った2013年度は8回の番組審議委員会を開催した。詳細は以下の通り。

第1回	6月26日(水) 17:00～	「まちはイキイキきらめきタイム」から 「おおつちさいがいエフエムとの電話中継コーナー」 5月10日(金)12:10～12:14 放送 担当者：佃由晃、金千秋 (FM わいわい) ゲスト：道又美佳 (おおつちさいがいエフエム)
第2回	7月31日(水) 17:00～	「ももっちおばちゃんのラジオお昼便!」 7月16日(水)13:00～13:15 放送 担当者：溝江玲子、金千秋 ゲスト：中田進 (関西勤労者教育協会)
第3回	9月11日(水) 17:00～	「アンクル・トムの『笑顔の宅配便』」 8月13日(火)14:15～14:30 放送 担当者：アンクル・トム (村上忠孝)、だるま森+えりこ ミキサー：金千秋
第4回	10月23日(水) 17:00～	「ゆうかりに乾杯」9月28日(土)16:00～17:00 放送 担当者：安本久美子、中嶋邦弘、佃由晃、三木文子、妹尾優香、 門田成延、一ノ瀬悟 (ゆうかり放送委員会)
第5回	11月20日(水) 17:00～	「YY MUSIC TIME 中国語」 11月11日(月)19:05～19:55 放送 担当者：周偉棟 (プロキューブ インターン)
第6回	1月22日(水) 17:00～	「Afternoon ねね」1月11日(土)15:00～15:55 放送 担当者：黄門さん、助さん、格さん、アキさん、八兵衛、わだかん、紋次郎、 太郎、今一ノ丞、いっちゃん、なかちゃん、濱田明展、 濱田きよ子
第7回	2月28日(金) 17:00～	「ラジネットひょうご」1月26日(土)12:45～13:00 放送 担当者：金千秋、はまのかずみ (FM わいわい)、 ゲスト：金崎伊保子 (おおつちさいがいエフエム)
第8回	3月26日(水) 17:00～	「ステーションキャンペーン VOICE OF FUKUSHIMA 編」 2月16日、23日、3月2日、9日(日)21:00～22:00 放送 担当者：金千秋、久保田彩乃 (おだがいさまエフエム) ゲスト：小笠原隼人 (チャイルドラインこおりやま事務局長)、 名嘉幸照 (双葉郡富岡町民)、宮本皓一 (富岡町長)、 遠藤智 (双葉郡広野町長)、品川万里 (郡山市長)

○ 番組審議委員一覧

正岡 健二 (NPO 法人 KOBE 鉄人プロジェクト理事長)

萩尾 利雄 (萩尾建築事務所代表) ※

山本 幸男 (長田神社前商店街振興組合副理事長)

木辻 清子 (特定非営利活動法人ピータンハウス副理事長)

為岡 務 (為岡建材工業株式会社代表取締役) ★2013年度委員長

宮川 清 (宮川興産有限会社 取締役)

中村 忠司 (学校法人玉田学園 法人事務局長)

増田 匡（神戸市長田区まちづくり推進部まちづくり課 課長）

※ 萩尾利雄委員 2013年8月12日ご逝去

（カ）外国人のコミュニティ放送への運営参画を阻む電波法を正す運動

総務省との交渉の末に、現行の放送法、電波法のもとで定款の理事の位置づけを変更することで、外国籍理事を可能とすることに向け動いたが、特定非営利活動促進法との整合性がとれないため、その形で問題を進めることは断念した。電波法、放送法を改正していくことで問題を解決していく当初の運動の形に戻った。

(3) 地域の活性化イベント企画・実施

①世界の食とおもてなしの出前サービス

国際交流クラブ高砂よりご依頼（2013年6月1日開催、ペルー料理、シェフ：大城ロクサナ）

②地域の活性化イベント企画・実施

<業務総括>

FM わいわいが音響設備を実際に持ち込んで音響業務として関与するイベント開催は、実行委員会形式である。この実行委員会での地域の人々との会議は非常に重要な多文化共生への意見発言の場であり、この地域にはいかに多様な人々が共に住んでいるのかをお伝えする場でもある。またここでの出会いから、他の祭りへの意見を求められることへと大きくつながっている。現在の事務局のキャパシティでは、音響業者として参加する機会を増やことは現時点以上はなかなか難しい状況ではあるが、司会派遣要請やさまざまな出演者の紹介依頼は年間通じてかなりの件数に上っている。これは放送業務の考え方と連動するが、それらをたかとりコミュニティセンターの他団体や地域で活動している多文化な団体とつなぐという、FM わいわいの役目だと考えている。

- ◇ 2013年4月29日 「ハナミズキ」祭
- ◇ 2013年7月17日・18日 「夏越ゆかた祭」
- ◇ 2013年9月 「ながたっこ祭り」 降雨のため中止
- ◇ 2013年10月5日 「国際防災展示会」
- ◇ 2013年11月3日 「長田発 こうべユニバーサルデザインフェア」
- ◇ 2014年3月23日 「こうべユニバーサルデザインフェア」

(4) 外国人サポート関連

①外国人県民生活支援事業（緊急雇用含）

関西ブラジル人コミュニティ、ベトナム夢 KOBE、ひょうごラテンコミュニティに対して必要に応じたサポートを継続。

また、公益財団法人兵庫県国際交流協会、上記の三つの外国人コミュニティ、たかとりコミュニティセンターの三者協定による外国人県民サポート事業の実質上のアドバイザー役を、引き続き担った。

②キッズ/ユース事業

Re:Cは映像をはじめ、メディアを使った表現活動を通して子どもたちが成長し、自らのメッセージや感性を自信をもって社会に発信していく、という開始当初からの目的に則り、2013年度は活動に参加する高校生の映像やラジオなどでの表現活動のサポートに取り組んだ。しかし、映像プロジェクトの企画やサポート人材が充実しているとは言えない状況のため、完成した映像作品は少なく、次年度以降の課題となった。サロン活動の活性化については、ベトナム夢 KOBE やひょうごラテンコミュニティとの活動連携が図られたことにより、一定の成果を上げることができた。

◆映像制作

- 1) 映像作りを身近に感じてもらうことを目的とした映像ワークショップを開催(7/20)
- 2) 地域のイベント「多文化で元気！新長田こどもフェスタ」を取材(3/2)

◆ラジオ番組制作

- 1) “Re:C ラジオ”を月に一番組制作し、放送
- 2) リスナーの存在を意識した番組制作

◆居場所づくり（神戸市「地域による青少年の居場所づくり事業」）

- 1) 毎週土曜日にコミュニティサロンを開催
○ベトナム夢 KOBE と合同でクリスマス会を開催（12/14）

◆食育活動（神戸市「地域による青少年の居場所づくり事業」）

- 1) みんなで食事を作り一緒に食べる食育活動（「食れっく」）を実施
開催日：7/20, 10/26, 1/25, 3/22

◆ニュースレターの発行（神戸市「地域による青少年の居場所づくり事業」）

- 1) 活動内容を報告するニュースレターを7月、12月、3月に発行（各号約250部）

◆野外レクリエーション（神戸市「地域による青少年の居場所づくり事業」／「子ども夢基金」）

- アクセサリー作り（9/7）
- ブックカバー作り（12/7）
- 福祉事業所でドーナツ作り体験（3/28）

◆課外学習

- 1) セーブ・ザ・チルドレン主催の「第4回東北子どもまちづくりサミット」に子ども2名が参加（5/5）
（阪神淡路大震災からのまちづくりについて学ぶため、神戸市長田区、須磨区を子どもまちづくりクラブのメンバーが訪問）

(イ) 発信・啓発

○2012年度に制作した冊子「ワタシとカレシで確かめ合う しあわせのSEXルール」を、地元の学校やNGO、行政機関に配布

(ウ) 提言活動

◆外国人児童生徒の言語形成を保障するバイリンガル教育環境推進のための政策提言（省略形：バイリンガル提

言)

政策提言を通して多様性を尊ぶ教育環境を拓いていくためトヨタ財団の助成金を確保し、教育機関において外国人児童青少年一人一人の状況にあわせて言語形成を保障していけるよう、これまで培ってきた全国的なネットワークを活かし、日本語を母語としない子どもたちの言語形成に関する現行の制度や施策を洗い直し、子どもたちの実際の状況と照らし合わせて、今後の政策に関する提言をすることを目的とした活動を実施している。

政策提言の取りまとめにあたり、兵庫県の母語学習支援を含む外国人児童生徒への取り組みの成果を学術研究者たちが積み重ねてきた知見と照合し、企画参加者内で議論を深め、提言内容の骨子を固めていくことを目的に企画参加者会議を11月30日および3月23日に開催した。しかし、提言や啓発用ビデオ作品の作成にあたってはより時間をかけて議論を深めていく必要があり、事務局や企画参加者の本企画に関する動きについても細かく計画し、共有していくために、前述の企画参加者会議に加えて、本企画の実施にあたって中心的な役割を果たす参加者が集まるミーティングを、12月20日、1月10日、2月14日と、月に1度のペースで開催した。

本企画にも参加してくれている県外で外国人児童へのサポートと政策提言のためのネットワークを有する NGO/NPO の中心メンバーと情報を共有し、連携のさらなる強化を図るため、2月12日から14日にかけて、浜松 NPO センター、川崎ふれあい館、多文化共生センターの多文化フリースクール新宿校を訪問し、打ち合わせを実施した。

提言内容に「日本語指導が必要な児童生徒」であった当事者の声を十分反映していくことを目的に、3月23日に浜松、東京、神戸から多文化な背景を持つ若者を招き、ラウンド・テーブルを実施した（「教育環境を振り返る座談会～言語形成中心に」@神戸市立地域人材支援センター）。

啓発用の DVD の制作については、映像作品を「外国人児童生徒の言語形成を保障するバイリンガル教育環境推進」という本企画のテーマに深く関心を持ってもらうためのツールとして位置づけ、多文化な背景を持つ当事者の視点から本企画のテーマに踏み込んでいく訴求力を持つ作品にしていけるように、映像制作担当者と計画を進めている。

(5) コンテンツ (ICT、映像、音声)

<業務総括>

2012年度は控えめだったホームページ制作案件数は、2013年度は比較的大きな規模の日本語ホームページという形式のものが増加した。

インターネットを通じた情報発信の変化に伴い、ホームページ制作の内容や質、制作形態も大きな変化を見せている。現在、日本語のWEBコンテンツ受注の際には、必ず「wordpress」を使用して欲しい、というオーダーが含まれるようになっている。

PRO3制作部門では、比較的早期からクライアントに対して「wordpress」を使った制作を薦めており、実績もある。しかし、このツールも日々、アップデートを繰り返して、現在では多くの便利な機能が実装されている。使いこなすにはやはり、情報収集と経験が必要。今後の日々、研鑽は欠かせない。

また、FMわいわいのホームページの媒体効果を活かし、企業広告を掲載し、70万円強（前年度実績3万円強）の資金を獲得することができた。

①ICTコンテンツ

<内部コンテンツ>

リーフレット、タイムテーブル (FMYY)、
医療通訳マニュアル (FACIL)

<受注コンテンツ>

ホームページ、パンフ他

以下、例

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| *法律事務所 HP [wordpress 新規製作 2件] | *社会福祉協議会 HP [wordpress 新規製作] |
| *製造業企業案内パンフレット | *自治体ページ物パンフレット |
| *鉄道関連会社 4言語対応乗車券 | *鉄道関連会社 チラシ |
| *飲食店 [ホームページ・ポルトガル語] | |
| *スポーツ関連施設 中国語パンフ | |
| *自治体パンフレット2件 | |
| *「暮らしの安全・安心ミニ情報」公益財団法人 | |

<ファンディング関連 他>

◆FMわいわいホームページ広告

- * (株) オートミ バナー広告
- * 広告代理店 グーラン株式会社からの依頼で7件のテキスト広告
- * 株式会社JB プラネッツからの依頼で1件の広告新規受注

②映像コンテンツ

◇日本NPOセンターより依頼の「タケダ・いのちとくらし再生プログラム《第2回成果報告会》」の記録を制作し、Youtube にアップ

◇大阪大学グローバルコラボレーションセンター主催の足元の国際化連続セミナー「多様性が生きる社会とは？」のUstream 中継を実施

③音声コンテンツ

◇「コミュニティ通訳・翻訳ボランティア語学スキルレベルチェック事業」の音声素材を制作

(6) 防災／災害支援（防災・減災におけるコミュニティラジオ活用事業）

<業務総括>

阪神淡路大震災の経験をもとにコミュニティラジオを活用した災害支援、防災のまちづくりの知見を国内外に広めていく活動は、金額ベースではFMわいわいの全事業の三分の二の規模までに成長した。

国内では、東日本大震災の被災地の臨時災害放送局の支援活動に2011年度、2012年度に続いて取り組んだ。国外においては、インドネシアのジャワ島中部のメラピ山麓でのコミュニティ防災力向上活動に加えて、同じくインドネシアの北スマトラにおいてシナブン火山の被災に災害ラジオ局の開設を行った。さらにフィリピンの台風ハイエンの被災地の災害ラジオ支援募金活動も実施する。

こうした現場での活動に加えて、シンポジウムやセミナーを通して、コミュニティラジオが災害時のみならず防災においてもコミュニティの防災力を向上させていく有用なツールになることを国内外に広めることにも力を注いだ。

(ア) 東日本大震災被災地支援活動

(i) コミュニティの復旧・復興期を支える臨時災害FM局支援

<概要>

コミュニティに深く根を張り、人とのつながりと絆をつくり、コミュニティとしてのアイデンティティを維持していくことは、復興期において臨時災害エフエム局が担うべき役割である。さらに復旧期、復興期においては、臨時災害エフエム局がコミュニティの中で端に追いやられ、立場や考えの異なる人々の声を、とりわけ見えない存在とされている人々の声をコミュニティに届けることで、大きな声の意見だけを取り上げられるのではなく、マイノリティが取り残されることのない災害復興に貢献することができる。

東日本大震災で立ち上がった臨時災害エフエム局が被災者の側に立った放送を続けていけるよう、FMわいわいが培ったノウハウを伝える活動を昨年度に引き続いて展開した。

<活動の対象者>

大槌災害エフエム、陸前高田災害エフエム、名取災害エフエム、亶理災害エフエム、南相馬災害エフエム、富岡町災害エフエム

○活動内容

- (1) 災害エフエムを訪問し、運営、番組制作、運営支援
- (2) 電話、インターネットによる相談
- (3) 災害エフエム局同士のネットワーク構築

○資金

約200万円（赤い羽根、大学研究費）

○協力団体

多言語センターFACIL、大阪大学グローバルコラボレーションセンター、龍谷大学非営利放送研究会、災害とコミュニティラジオ研究会、ジェンダーと災害復興の制度設計のための研究会

成果1 活動の継続

支援対象とした6つの災害エフエム局のすべてが2013年度中に放送免許の期限切れを迎えたが、「復興ラジオ」としての役割が地元自治体、コミュニティ、そして総務省に認められ、支援対象のすべての災害エフエム局が2015年3月末まで放送免許が延長できた。今回の活動で現地訪問を続け、ラジオ局のスタッフや地元住民、そして地元自治体と2014年度以降に向けての対応について話し合いを続けてきたことの成果の一つである。さらに、総務省や学識経験者、マスメディアに向けて災害エフエム局の継続の必要性をそれぞれの災害エフエム局とともに発信し、震災から4

年目以降の放送免許の延長は、災害エフエム局が復興期においてコミュニティを再生していくために、被災地において人と人を繋いでいく大きな役割を担っていることが認められたものである。

また六つの災害エフエム局のうち、二つの災害エフエム局が、震災から続けて来たラジオを活用したコミュニティづくりの活動を、長い復興期においても続けていくために、コミュニティ放送局への移行に向けて運営母体となるNPO法人を設立した。地元の自治体と協力しながら住民主体でコミュニティのラジオ局を運営していくことに向けて大きく前進した。

残りの四局は、コミュニティ放送局への移行を検討している放送局と、コミュニティ放送局へは移行せずに災害エフエム局として活動を継続していくことの二つに分かれる。放送局の形態を問わず活動を続けていく上で、現在は国の復興予算を災害エフエム局の活動を支えているが、それがなくなったとき、いかに資金確保をしていくかが課題としていぜん残っている。

成果2 少数者の声を伝える放送

コミュニティの復旧、復興の中で大きな声ばかりが取り上げられるのではなく、女性、子ども、障害者、外国人などの声を復興に反映させていくことは災害エフエム局の大きな役割の一つである。支援対象とした六つの災害エフエム局のうち3局で在住の外国人が災害エフエムの活動に参加し、同胞に母語で復旧、復興の情報を伝えるとともに、地域社会と外国人住民の架け橋の役割を果たしている。とくに陸前高田災害エフエムの中国人のボランティアパーソナリティはラジオ放送に加えて、ソーシャルメディアを活用してコミュニケーションの輪を広げている。また、復興に女性、子どもの声を届ける番組もいずれの放送局からも活発に放送されている。多様な住民が放送活動に参加することで、立場や状況の異なる住民同士に相互理解を促す、復興ラジオの役割が大きく結実している。課題としては、障害を持った人達のラジオ活動への参加がいぜん途上である。

成果3 放送番組の質の向上

災害エフエム局の番組制作力は毎日の活動の積み重ねによって向上している。現地訪問によって番組制作や技術面での問題解決などのサポートとともに、日常的に困った時に電話やメール等で相談できる存在であることを心がけた。

○災害エフエム訪問／災害エフエム招聘記録

<大槌災害FM>

- 2013年6月 大槌災害FMを運営するNPO法人を訪問し、コミュニティ放送局への移行に関するコンサルテーション、番組制作に関する支援を実施（日比野、吉富、金）
- 2013年8月 放送局を訪問しコミュニティ放送局への移行に関するコンサルテーションを実施（金、近藤）
- 2014年3月 放送局を訪問しコミュニティ放送局への移行に関するコンサルテーション、番組制作支援、技術支援を実施（日比野）

<陸前高田災害FM>

- 2013年6月 放送局を訪問し運営、番組制作、技術支援（日比野、吉富、金）
- 2013年8月 放送局を訪問し、コミュニティ放送局への移行に関するコンサルテーションを実施（金、近藤）
- 2013年9月 陸前高田災害FMの中国語番組ボランティアスタッフ一名を当団体に迎え入れ、番組制作に関する指導を実施
- 2013年11月 放送局を訪問し、外国語番組制作に関する指導を実施（金、田口、馬）
- 2014年3月 陸前高田災害エフエムのスタッフ二名に対して、2014年度以降の活動に関するコンサルテーションを実施（日比野）

<名取災害FM>

- 2013年6月 放送局を訪問し、コミュニティ放送局への移行に関するコンサルテーション、番組制作の支援を実施（日比野、吉富、金）
- 2013年9月 放送局を訪問し、コミュニティ放送局への移行に関するコンサルテーション、番組制作の支援を実施
- 2013年10月 放送局を訪問し、コミュニティ放送局への移行に関するコンサルテーション、ジェンダーに配慮した番組制作支援を実施（日比野）
- 2014年1月 放送局を訪問し、コミュニティ放送局への移行に関するコンサルテーション、番組制作の支援を実施（日比野、吉富、岡戸）

<亙理災害エフエム>

- 2013年4月 放送局を訪問し、ジェンダーに配慮した番組制作支援、コミュニティ放送局への移行に関するコンサルテーションを実施（金）
- 2013年6月 放送局を訪問し、コミュニティ放送局への移行に関するコンサルテーションを実施（金）
- 2013年8月 放送局を訪問し、コミュニティ放送局への移行に関するコンサルテーション、ジェンダーに配慮した番組制作支援を実施（金、近藤）
- 2014年3月 放送局のスタッフ二名に対して、2014年度以降の活動に関するコンサルテーションを実施（日比野、金）

<南相馬災害FM>

- 2013年6月 放送局を訪問し、ジェンダーに配慮した番組制作支援、コミュニティ放送局への移行に関するコンサルテーションを実施（日比野）
- 2013年6月 南相馬災害FMのスタッフ、住民と南相馬市内で2014年度以降の活動継続に関する研修会を実施（日比野、吉富、金、田口）
- 2013年9月 放送局を訪問し2014年度以降の活動継続に関するコンサルテーションを実施（日比野）
- 2013年12月 放送局を2014年度以降の活動継続に関するコンサルテーションを実施（日比野）
- 2014年1月 放送局を訪問し、2014年度以降の活動継続に関するコンサルテーション、番組制作の支援を実施（日比野、吉富、岡戸）
- 2014年2月 南相馬災害FMのスタッフ2名を神戸で開催したコミュニティラジオのフォーラムに迎え入れ、運営に関するコンサルテーションを実施
- 2014年3月 放送局を訪問し南相馬災害FMのスタッフ8名に対して、2014年度以降の活動に関するコンサルテーションを実施（日比野、金）

<富岡災害FM>

- 2013年6月 放送局を訪問し、ジェンダーに配慮した番組制作支援、コミュニティ放送局への移行に関するコンサルテーションを実施（日比野）
- 2013年6月 南相馬災害FMのスタッフ、住民と南相馬市内で2014年度以降の活動継続に関する研修会を実施（日比野、吉富、金、田口）
- 2014年1月 放送局を訪問し、2014年度以降の活動継続に関するコンサルテーション、番組制作の支援を実施（日比野、吉富、岡戸）

(ii) コミュニティラジオ/災害ラジオの役割/活動を社会に伝える場づくり

<概要>

災害から復旧、復興、そして防災という災害サイクルのすべてのフェーズにおいてコミュニティラジオ局（災害エフエムを含む）の必要性を一般社会に伝え、とくに東日本大震災の臨時災害放送局の活動に関心を高めていくための場づくりを行った。

○ コミュニティの再生とラジオの役割 (主催の災害とコミュニティラジオ研究会のメンバー)

日 時：10月27日 (日) 13時～17時

場 所：東京国際フォーラム

内 容：シンポジウムでは、3・11以降の臨時災害放送局やコミュニティ放送局、政府や支援団体などへの2年間にわたる調査を踏まえ、こうした課題をどのように受け止め解決していくかを、臨時災害放送局に関わる多様な関係者で論議することができた。

参加者：80名

○ フォーラム「コミュニティラジオの底力」(JICA関西、大阪大グローコル、大阪大学未来戦略機構第五部門とともに共催)

日 時：2014年2月1日 (土) 13時半～17時半

場 所：JICA関西国際センター

内 容：インドネシアと日本のコミュニティラジオ/災害エフエム局の活動事例を聞いて、防災、復興、まちづくりにおけるコミュニティラジオの役割を参加した市民がテーブルを囲んで意見交換し、理解を深めることができて。

参加者：50名

<多言語センターFACIL主体>

(ア) 外国人自助組織のエンパワメントとネットワーク構築

助成金：赤い羽根共同募金(150万円) ※2011年度、2012年度に引き続き、奥州市国際交流協会へ番組制作補助と通訳翻訳を委託。

被災外国人グループのラジオ番組制作を通じたコミュニティ作りの3年目。気仙沼市だけでなく、南三陸町など他の地域に住むフィリピン人グループの方々、陸前高田市の中国人パーソナリティ、宮城県国際化協会の相談員の方々など寄贈機器の有効利用も含めた多様な活動を広め、これらのグループ、個人や他地域で活躍する外国出身の被災者たち、神戸の外国人コミュニティリーダーたちのネットワーク作りを通して、さらに自立したコミュニティ形成を目指す。

ー2013年11月14日～17日 金千秋、田口靖幸 東北出張「コミュニティラジオやfacebookを活用したコミュニティ作りとネットワーク構築研修」

ー2014年2月21日～23日 松原マリナ(CBK)、金千秋 東北出張「阪神淡路大震災後の神戸におけるブラジル人コミュニティの変遷」

ー2014年7月に事業終了予定。大城ロクサナ(HLC)による研修と関係者によるラウンドテーブルミーティング(2014年6月 仙台)を予定。

(ii) コミュニティメディアを活用した防災事業 (国外)

<概要>

インドネシアでのJICA草の根技術協力事業が二年度目に入り、当地におけるコミュニティラジオを活用した防災事業が軌道に乗った一年になった。ジャワ島中部でのメラピ山での活動(JICA草の根事業)に加えて、昨年秋から断続的に続く北スマトラのシナブン山の噴火にともない、災害ラジオ局を活用した早期警戒システムの構築をジャパンプラットフォームの助成を受けて現地カウンターパートとともに実施したことは大きな成果である。また、昨年11月にフィリピンで発生した台風ハイエンの被災地の災害エフエムの立ち上げ、運営を支援する募金活動も行った。

①ジャワ島中部メラピ山周辺村落におけるコミュニティ防災力向上事業（JICA草の根技術協力事業）

①-1. 事業概要

対象国名：インドネシア共和国

事業内容：事業背景と必要性：メラピ山はインドネシアでも最も危険な火山であり、2010年の大噴火では周辺社会に大きな被害をもたらした。土石流や洪水などの二次災害も頻発しており、この影響は2014年頃まで続くと言われている。近い将来また大規模な噴火の可能性が高いことから、周辺地域社会の防災力を向上させる必要がある。また、コミュニティラジオ局など様々な地域の資源を組み合わせ、コミュニティ防災のモデルを構築し、インドネシアの他の地域に提示していくことも重要な意義を持つと考えている。

プログラム目標：ジャワ島中部メラピ山周辺村落のコミュニティ防災力が向上する

対象地域：メラピ山周辺地域に位置する6村落

受益者層：メラピ山周辺地域の住民、コミュニティラジオ、行政機関

期 間：2012年10月～2016年3月（3年6ヶ月）

予 算：約4,421万円（2013年度の事業費は12,517,007円）

①-2. 実施体制

担当職員（プロキューブ）：日比野純一（プログラムマネージャー）

近藤まりえ（現地業務調整員）～2014年3月

岡戸香里（現地業務調整員）2014年1月16日～

古寺瑞代（国内業務調整員）

現地事業共同実施団体：Combine Resource Institution（CRI）

①-3. 活動内容

コミュニティラジオのキャパシティビルディングや防災の番組づくりの活動を地道に継続した。それによって、それぞれのラジオ局に関わる住民の災害対応力は確実に向上している。とくに、被災者が自らの経験を語り継ぐストーリーテリングの番組をつくる活動が始まり、メラピ山の噴火の「語り部」たちが、ラジオ局でその体験談を発信しはじめた。

メラピ山周辺のコミュニティラジオ局のネットワークであるJalin Merapiにおいて、3ヶ月に1度の定例会を開催しながら、各コミュニティラジオ局の問題を共有し、問題解決に向けて議論を行っていることも全体の防災力を高めることに大きく貢献している。団結力を高めることを目的にJalin Merapiの60名以上のメンバーとメラピ登山も行った。

ラジオ局の活動と並行して、主に女性や子どもを対象に「防災とは何か」「どんな災害対策ができるか」などを話し合うワークショップ、防災教育ゲームや火山噴火実験などのイベントを通じて、防災の知識向上と災害対応力の向上に取り組んだ。これまでの村落で行なわれて来た防災活動では、一部の地域を除いて女性達や子ども達が活動の外に置かれがちだった。だから、こうした女性達や子ども達がコミュニティ防災活動に参加していくようになることも、この活動の目的の一つである。

また、2014年1月には大阪大学未来戦略機構がJalin Merapiの代表、カウンターパートの理事、インドネシア・コミュニティラジオ協会代表（対象地域のコミュニティラジオ局の設立者）の3名を招聘し、京都、大阪、神戸でシンポジウムを開催した。その来日時に、龍谷大学非営利放送研究会の協力のもと当団体のアレンジで3名を東日本大震災の被災地に案内し、とくに臨時災害放送局のスタッフと互いの経験と知識の共有を行った。

メラピ山での活動で培った経験に東日本大震災の被災地で学んだ知識と経験が加わり、他の火山噴火（北スマトラのシナブン火山、東ジャワのクルード山）の被災地支援において、当該事業に関わるメラピ山のコミュニティラ

ジオ局とカウンターパートと当団体が協力して二つの火山被災地で災害ラジオ局の立ち上げ、運営支援を行った。さらに、インドネシア版臨時災害放送局の制度づくりに向けての準備が始まった。

②大阪大学グローバルコラボレーションセンター実施のインドネシア・ジャワ島中部でのコミュニティ防災フィールドスタディに協力

このフィールドスタディは、FMわいわいがCOMBINE Resource Institutionと長年に渡って培ってきた協働事業の成果をベースに、主に①の「ジャワ島中部メラピ山周辺村落におけるコミュニティ防災力向上事業」の実施地域で2013年9月15～23日に行われた。①の事業への日本側市民への理解促進と位置づけ、事前学習、フィールドスタディの計画支援、参加学生へのレクチャー、そしてフィールドスタディに随行した。

③インドネシア・シナブン火山噴火における緊急災害ラジオ局の開設支援事業（JPF助成事業）

インドネシアのスマトラ島北部のシナブン火山の噴火被害によって避難所で生活を送る避難者と周辺の帰還住民を対象に、災害ラジオ局を開設し、避難所の被災者および一時帰還している住民に対して、タイムリーに情報を伝え、次の噴火、二次災害から住民を守るとともに、生活の改善、暮らしの再建に必要な情報を提供する事業をジャパンプラットフォーム（JPF）の助成を受け、COMBINE Resource Institutionとともに実施した（事業は2014年5月15日まで実施）。

期 間：2014年3月10日～2014年5月15日（67日間）

予 算：4,998,260円（JPF助成額）

事業内容

③-1. 被災地調査（現状確認）

北スマトラ州カロ郡の被災地を訪問し、被災者と避難所の現状を確認し、裨益者の現状確認を実施。その後、現地メンバーと会合を開き、裨益者選択の最終調整、災害ラジオ局の開設場所、ラジオ受信機の配布方法、場所、セキュリティなどの打ち合わせを行った。

③-2. 災害ラジオ局の機材とラジオ受信機の購入

当法人と現地パートナー団体（ローカルNGOのCOMBINE Resource Institution（以下、COMBINE）の現地事務所のあるジョグジャカルタ市内、およびシナブン火山からもっと近い大都市であるメダン市内で災害ラジオ局の機材（送信機、アンテナ、ケーブル、発電機、音声ミキサー、パソコン、マイクロフォン、ヘッドフォン等）とラジオ受信機を購入。ジョグジャカルタで購入した機材については、飛行機でメダン市まで空輸し、メダン市から被災地までは陸路（自動車）で持ち込んだ。

③-3. 災害ラジオ局の開設

1-1の被災地調査（現状確認）に基づいて、シナブン火山の被災地に災害ラジオ局（二局）のため、放送スタジオの確保、放送設備の施設、放送機材の設置を現地パートナー団体であるCOMBINEとインドネシア・コミュニティラジオ協会と協力して行った。放送設備、放送スタジオの場所の特定にあたっては、カロ郡災害対策本部の協力を得た。

③-4. ラジオ受信機の配布

災害ラジオ局の開設と合わせて、ラジオ受信機1,000台の配布を行った。現段階では、避難所の住民と村落に帰還を始めた住民を対象とした。村落での配布においては、情報が各世帯に行き渡るように、カロ郡災害対策本部の協力を得て被災地の状況を確認しながら配布世帯を選んだ。

③-5. 放送スタッフのトレーニング

災害ラジオ局において放送活動を行う現地人材のトレーニング（機材の操作、メンテナンス、情報の収集、アナウンス等）をパートナー団体であるCOMBINEとインドネシア・コミュニティラジオ協会のアドバイスを受けて実施した。

③-6. モニタリング及び聞き取り調査

災害ラジオ局の放送開始後、モニタリングを実施。ラジオ局の放送状況などの確認を行った。それと同時に、裨益者へ聞き取り調査を行い、ラジオからの情報がどのように役立っているかについての聞き取りを実施した。

④BHN実施のバングラディッシュでの防災コミュニティラジオ支援事業（JICA草の根技術協力事業）に専門家派遣（～2017年度）

BHNテレコム支援協議会がバングラディッシュのハティア島で実施するコミュニティラジオによる災害情報提供を活用した地域住民災害対応能力強化プロジェクト事業（JICA草の根技術協力事業）において、コミュニティラジオ局のキャパシティビルディングに日比野が専門家として従事することになった。しかし、本格的に活動に関わるのは、2014年度以降になる。

⑤研修を通じた経験・知識の普及事業

JICAによる途上国の行政職員、NGO職員、研究者向けの防災研修で「防災とコミュニティラジオ」をテーマに講義を実施した。

研修回数：10回

講師：日比野純一、吉富志津代、金千秋、大城ロクサナ

<成果と課題>

東日本大震災から3年が経過し、FMわいわいが支援を続けている6局を含めて10局の災害エフエム局が活動を続けている。災害エフエム局の多くは沿岸部にある規模の小さな市町村にあり、地震、津波、そして原発事故でコミュニティが崩壊された地域である。これらの地域ではコミュニティの復興が大きな課題だ。現在も災害エフエムが放送を継続しているのは、そのコミュニティの復興や再生にラジオが役に立つからに他ならない。コミュニティに深く根を張り、人とのつながりと絆をつくり、コミュニティとしてのアイデンティティを維持し、コミュニティの小さな声を復興のプロセスに届けていくことに貢献している災害エフエム局の活動が継続していることが、FMわいわいの活動の成果である。

インドネシアにおいては、コミュニティラジオを災害対応、防災にいかに関活用していくのかの、日本とインドネシアでの経験の共有とメラピ山、シナブン山での実践活動が積み上がり、日本の臨時災害放送局のような制度づくりに向けての動きが、現地カウンターパートとインドネシア・コミュニティラジオ協会とともに始まった。

一方、事業に従事できる人材に限られていることが、いぜんとして解決できていない課題である。FMわいわい内の人材に限らず、広く事業への参加の機会を作ることで、課題解決を図りたい。

(7) コミュニティメディアとの連携

世界コミュニティラジオ放送連盟(AMARC)アジア太平洋地域大会が2013年12月2日から5日までの4日間、韓国ソウルで開催され、AMARC日本協議会の事務局を務めるFMわいわいが日本からの参加者(10名)のコーディネートを担った。FMわいわいからは2名(日比野純一、周偉棟)が参加した。大会中はアジア太平洋地域のコミュニティラジオ局の仲間達との知見の共有を積極的に進めた。最終日の会員総会で日比野純一がAMARCアジア太平洋地域理事(会計担当)に選出された。任期は4年間。

(8) 会員・データベース

<業務総括>

多文化プロキューブグループおよび関連団体は、個々の背景によりわけ隔てられることなく、より多くの市民が参加できる多文化なまちづくり活動を創出・継続していく集団として活動を続けている。

プロキューブの各団体は現在に至るまで、各団体の会員をはじめとする多くの協力者からの関心と理解によって支えられてきた。今後も活動を続け、さらに社会変革につながる大きなうねりとしていくために、細やかな活動報告や情報発信を通じて、これまで以上に多くの人たちと有機的につながり、課題や活動内容を共有することが不可欠といえる。

「多文化共生」「NGO/NPO」「市民メディア」の現場での実習を行えるとして毎年大学や団体、個人からインターンやボランティアの希望があり、業務ベースでの実習を基本に受け入れている。働き手としてだけでなく、持続的な関係の中で目的やビジョンを共有できる「仲間」となっていくことを目指している。

こうしたプロキューブにかかわる様々な協力者の個人情報および関連する情報を一元的に管理、運営するデータベース（人的資源管理データベース）を運用する。

一方、会員制度による会費収入を補完するファンドレイジング活動として、FM わいわいホームページに掲載する広告の受注。さらに今年は、市民活動センター神戸主催の寄付プロジェクト「共感寄付」に参加したことも挙げておく。

①プロキューブの会員制度

◆プログラムの内容

プロキューブグループ内の会員制度は大きくわけて次の3つである。特定非営利活動法人エフエムわいわいの会員制度（「わいわいクラブ」が前身）、特定非営利活動法人多言語センターFACILの会員制度、プロジェクト「Re:C」のサポーター制度。

(ア) 特定非営利活動法人エフエムわいわいの会員制度

2011年度に株式会社からNPO法人に法人移管以降、長年にわたりFMわいわいを支えてくださった旧株主、番組スタッフをはじめとする多くの方たちに、その意味をご理解いただきたく協力や支援を仰ぎ、新たな会員獲得と併せ、旧わいわいクラブ会員の皆様にはNPO法人の会員への移行を促した。

会員数は初年度に各会員種別毎に獲得目標数を設定しているが、とくに目標を下回っている一般会員増加のために2013年度も努力した。

旧わいわいクラブ会員のうちNPO法人会員への未移行は25名程度、番組スタッフで未加入の方は少数ではあるが、関係性が長いほど未加入率が高い傾向があるのではないかと。正会員は1名増えたが、前年度は賛助会員であったが次年度は一般会員に登録するという例が複数あったため、賛助会員の減少も目立った。一般会員については、当初の目標300名にはまだまだ届かないものの、少しずつではあるが会員数を増やしている。特に東日本大震災の被災地支援活動でのご縁など、新たな関わりから会員登録する例が顕著である。

しかし、コミュニティラジオが一部の人たちのものではなく、地域やそれぞれが属するコミュニティの発信のためのツールであることを理解して活用してもらうために、また、FMわいわい存続のためにも、事務局をはじめすべてのスタッフ個々人の勧誘方法等にも一層の工夫と地道な努力を要する。

会員種別

種 別	入会資格	総会議決権	入会金 年会費	2014年 3月31日 現在

正会員	総会での議決権を持ち、運営に参画する個人および団体	あり	¥30,000 ¥12,000	16名 1団体
賛助会員	FMわいわいを「気持ち」と「お金」で支える個人および団体	なし	なし ¥10,000/1口	20名 2団体 23口
一般会員	放送、イベントなどの日常業務でFMわいわいの活動に参加する個人	なし	なし ¥2,000	118名
名誉会員 ※他の会員との重複は妨げない	FMわいわいに顕著な貢献をなした個人および団体	なし	なし	18名 5団体

参考) わいわいクラブとNPO 法人エフエムわいわいの会員状況

年度	正会員	賛助会員	一般会員
2011年	15+1団体	29+2団体 34口	98
2012年	15+1団体	23+2団体 28口	117

- ※ 正会員1名増加。
- ※ 一般会員のうち50名は新規登録者。前年度と一般会員数がほぼ同じということは、半数以上が更新できていなかったことになる。
- ※ 一般会員更新が激減したのは、ニュースレター発行が例年2回のところ1回のみとなり、会費納入をアピールする機会を逸したことが主な原因と言える。
- ※ 新規会員の傾向は、新たな番組スタッフとそのネットワークの方々、番組ゲストを体験してからの申込み、プロキューブスタッフとは無縁と思われるHPからのアクセスなど。
- ※ WEBでの申込みは遠方の方が多いが、長田区の方からも少数ある。
- ※ 名誉会員のみから一般会員、賛助会員へ登録する方、団体も増加
- ※ WEBの加入申込みは、申し出のみで未入金の方も。申込みと払込みが同時にできるシステムが急務。
- ※ 会員のうち、昨年度お亡くなりになった方は2名。

(イ) 特定非営利活動法人多言語センターFACILの会員制度

翻訳・通訳登録者約863名(会費なし)、正会員11名(うち団体2/会費:5,000円)が登録されている。業務遂行上、正会員で協議をするプロセスをとりにくいこともあり、正会員を増やすことには特に積極的ではない方針をとっている。コミュニティビジネスを扱うため賛助会員(会費:3,000円)を募ることも難しい。むしろ、日常および災害などの緊急時に実務を連携する翻訳・通訳登録者を多く募り、そのネットワークを広げることに主眼をおいているが、このデータベースは、連携した他の活動にも大いに活用できる。

(ウ) プロジェクト「Re:C」のサポーター制度

2013年度にサポーター費を納入してくれたのは51名(前年度より15名増)。サポーター費の納入は義務ではなく、私たちの活動に対するリアクションであり、期待のバロメーターともなることを再確認し、活動そのものとニュースレターを通じた発信を続けていく。

②会員・人的資源管理データベース(データベース)の構築・運用

データベースはプロキューブ各団体の代表とシステム管理者からなる管理チームが共に管理・運用の主体となり、システム構築や管理など技術面を担当するシステムアドミニストレータ(管理者)を管理チームが任命し、各デー

タの入力は実務者が行っているのが建前である。

しかし、マニュアル1版は制作途中である。データベースに何が入力されているのか、いないのか、何に使うのかということプロキューブのすべてのスタッフで共有し、今後の活動や会員獲得の一助にすべくマニュアル制作を急がなければならない。

FACIL業務の円滑化に伴い日常的にデータベースを閲覧・入力できるスタッフが増えたが、不可解なデータの消滅など説明が急がれる現象も発生している。

管理者の存在があいまいなため、退職した前任者にボランティア的にその任務の一部を継続してもらっている状況であり、また、随時データ入力を行い会員管理作業を担当していた非常勤スタッフが2013年度で退職したため、早急に新たな管理者の任命と、日常的なシステム管理についても実務担当スタッフの拡充が必要である。

○データベース登録内容が活用されるべき場面

- ・多言語センターFACILの通常業務
- ・多言語センターFACIL登録者へのサービスや活動報告
- ・Re:Cサポーターへのサービスや活動報告
- ・NPO法人エフエムわいわい会員へのサービスや活動報告
- ・ボランティアなど人材の管理
- ・多文化なまちづくりに関心を持つ人たちへの情報発信
- ・各種催し等の広報
- ・関心や行動傾向など、協力者の実態調査、比較検討等
- ・その他、管理チームが必要と認めたもの

③インターンシッププログラム

「多文化共生」「NGO、NPO」「市民メディア」の現場での実習を行えるとして毎年大学や団体、個人からインターンの希望があり、業務ベースでの実習を基本に受け入れている。働き手としてだけではなく、持続的な関係の中で目的やビジョンを共有できる「仲間」となっていくことを目指している。

2013年度は、前年度に加えて新たに4大学より受け入れ要請があったため、受入人数も増加となった。日常的に放送業務や翻訳・通訳補助にあたってもらったため、即戦力として欠かせない存在となった。人数増加に伴い、一年間を通じて途切れることなくインターン生を受け入れることができた。助成金事業としては、昨年度と同様に公益信託アジア・コミュニティ・トラスト実施の「アジア留学生インターン受入れ助成プログラム」から助成を受けることができた。本プログラムを通して中国からの留学生を受け入れることでさらに多様性が広がったと共に、指導費や諸経費が支給されることで団体運営の助けとなった。今年度の応募者の内訳を調べたところ、学部生に続き大学院生からの応募が多かった。大学院生の参加を通して、自身の研究を深めるだけではなく、研究から得た知識を共有する機会にもなった。更に春季・夏季休暇中には大学生の参加が増えたことで、スタッフが日頃の業務に追われて手が回らなかったプロジェクトをインターン生が中心となって進めてもらうことができた。1人1人のケアが行き届くように、今まで以上に受け入れ準備に力を入れること、そして受け入れ体制を整えることを心掛けたい。

○インターンの受け入れ実績

2013年度の実施状況は、立命館大学より春季1名、夏季1名、神戸学院大学より3名、職業訓練校アップ長田より6名、公益信託アジア・コミュニティ・トラスト実施の助成プログラムを通して中国からの留学生が1名、プロキューブインターンシッププログラムには述べ9名の参加があった。9名の内訳は以下の表の通りである。

上記に加え、大阪大学より3名、関西国際大学より2名、京都外国語大学より8名、奈良女子大学より1名より新たに参加があったため、大幅に受入人数が増加した。

2013年度プロキューブインターンシッププログラム参加者内訳

参加プログラム名	大学生 (院、専門学校生を含む)	社会人	合計
コミュニティラジオ番組制作および 広報業務補助	5名	1名	6名
翻訳コーディネート補助	0	1名	1名
多文化な背景をもつ子どもたちの育成支 援と表現活動支援	2名	0	2名
総計			9名

④ファンドレイジング

- ・公益財団法人ひょうごコミュニティ財団のプログラムのひとつである共感寄付への参加をし、2013年3月で終了した。後半、山中榮子さんの基金から多くの寄付をいただいたことによって、481,000円という金額に達した。

(9) 管理部門

①団体運営(プロキューブ全体)

- ・2013年度は、グループ内団体統合の凍結の中で、もう一度多くの関係者の納得のプロセスのためにも、職員や役員、FMわいわいの番組担当ボランティアのみならず、周囲の市民団体のメンバー、地域住民など、関心を持って下さる方達に開いた形で、FMわいわいという存在の意義やあり方についての意見交換の場を持った。FMわいわいのような地域のメディア団体については、経済的な持続のみではなく、多くの人に支えられる形態にむけた関係者の意識を大切にすため、今後も意見交換の場と、具体的な運営案を出し合う場を設定していく予定。
- ・代表者(吉富、日比野)への講演依頼を、できるかぎりスタッフへ分散し、多くのスタッフが講演依頼に対応できるように務めた。
- ・JICA草の根事業の職員(別途雇用契約に基づく)以外の常勤/非常勤職員について、一律の給与昇給・ボーナス支給(12月)を実施した。
- ・2013年度は、社員旅行として有馬温泉で一泊し、職員間の親睦を深めた。

②PCセキュリティ対策/メンテナンス/LAN管理

プロキューブ内のICT環境についての課題とその解決について話し合う場(仮称: Pro3 IT委員会)を月に1度のペースで開催。グループ内のICTに関わる環境のソフト/ハード両面の整備・強化および効率化を進めた。

2012年度に引き続き、神戸市のアドバイザー派遣制度を活用して、ひょうごんテックの緒方和也さんにプロキューブ内のIT環境の改善と統合を目的としたヒアリング調査とコンサルティングを依頼した。

③広報

毎日の放送へのゲスト投入のために、事務局・放送スタッフが積極的にセミナー・イベントに参加して人的ネットワークを拡大。これをソーシャルネットワーク(Facebook)と放送を活用してより広く、強固なものに。このようにして培った人のつながりを媒介に、活動内容の拡散とFMわいわいの存在周知を図った。

また、FACILやRe:cの活動についても、WEBページの新着情報をできるだけ更新するように努力した。

④庶務

庶務に関する担当者を決めたが、業務の繁忙期には、全員でカバーすることの必要性を感じた。また、文具等消耗品の管理はより一層の節約観念を認識しなければならない。

⑤会計・税務

前年度に比して、会計担当者と業務担当者間の取引内容に関する情報共有が図られるようになった。しかし3団体の会計を一括管理している現状を鑑みて、証憑類の混在を防ぐルールを構築する必要がある。

⑥労務管理

労務の諸手続等、総務的な側面もあるので、総務担当者と会計担当者が情報共有しながら、実務は労務士に依頼している。

(10) その他

① 研究・調査

【学会】

- 吉 富 *移民政策学会 *多文化関係学会 *日本公共政策学会
- 日比野 *マスコミュニケーション学会

【研究会／委員など】

- 吉 富 *大阪大学グローバルコラボレーションセンター特任准教授
 *大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター客員研究員
- 日比野 *京都大学大学院地球環境学堂東日本大震災研究会
 *龍谷大学非営利放送研究会
 *トヨタ財団2011年度研究助成プログラム「災害とコミュニティラジオー地域を越えたコミュニティメディアの支援システム構築をめざして」(2011～2013年度)
 *科学研究費助成事業「日本型コミュニティ放送の成立条件と持続可能な運営の規定要因」
- 金千秋 *「ジェンダーと災害復興―制度設計と生活再建をめぐる課題に関する国際比較研究」プロジェクト(2010～2013年)
 *長田区ユニバーサルデザイン研究会
 *地域自立支援の要援護者のための情報支援活動

② 発信／啓発

◆第9回移住労働者と連帯する全国フォーラム・神戸2013

多言語センターFACILが実行委員会の一員となり、第10分科会「災害と外国人」を担当(2013年6月15日、16日)。ほかにチラシ制作、司会、通訳コーディネーター(英語、スペイン語、ポルトガル語)も担当。

◆提言活動として

2013年度は、国際交流基金のセミナーを開催する機会を活用して、長田区のまちづくりに関わる「長田の未来を考える有志一同」で、長田区役所に以下のような提案を提出した。

<趣旨文>

長田区長 鈴木 雅子 様

2014年3月

長田の未来を考える有志一同

2013年7月に長田区で開催された公開セミナー、「多様性を活かしたまちづくり・ひとづくり」の参加者からながたのまちづくりに関心が寄せられ、ながたの未来を考える有志が集まりました。意見交換がなされ、以下のように提言としてまとめ、今後の中期計画に反映させていただけるよう、長田区へ提案することになりました。

「ひと」に歴史があるように「まち」にもそれぞれの歴史があり、私たちが生活を営む「ながた」にも、また特徴的な歴史があります。「ながた」のまちづくりを考える上で、ながたの礎の歴史をひもとき、それらについて為政者をはじめ市民、区民に共通の認識を持ちつづけることが重要であり、よりよい未来のために必要なことだと考えます。

「ながた」には世代を超えて住み続ける人々が多く、過去の記憶は人々の語り部の節々にあらわれます。しかしながら、記憶は忘れ去られ、伝説やうわさにしか反映されません。ながたが培ってきた歴史の財産を大切に守っていくためには、まず何がながたの財産なのかを知らなければなりません。それらを可視化していく作業が求められます。

ながたは現在も“くつのまち”として全国に名を知られています。その歴史は、かつての被差別部落や朝鮮半島から渡ってきた人たちと深く関わりがあります。特に戦後は、ゴム工場からケミカルシューズ工場に移り、ながたは 1980 年以降来日したインドシナ難民などの日本語を話せない外国人でも働くことのできる地域となっていました。1990 年代になると日系南米人やフィリピン人など多様な国にルーツをもつ人たちが合流し、ながたのまちを地域の住民とともに作り上げてきたのです。そこには、夢と希望や、その裏にある血と汗と涙の軌跡も含めて、さまざまな経験や歴史が刻まれてきたことはまちがいありません。

ながたに集う者にたいして、そしてこれからこのまちで暮らしていただく次世代の人々に向けて、これらの歴史にふれ、お互いが尊重され、ともに歩む共通の認識を育てていくことに、具体的に取り組んでいかなければならないのではないのでしょうか。阪神・淡路大震災という自然災害を乗り越えてきたこの「ながた」だからこそ、人と人のつながりの大切さを、身をもって知ったのではないのでしょうか？ ながたが持っている財産は何なのか、それらを目に見える形に置き換え、再確認し、住民やここに集う人々が納得していく作業が進んでいく先にこそ、輝く「ながた」が見えてくるのではないのでしょうか。この目的を達成する長、中、短期計画を以下の事業にそって実行していただきたくお願い申し上げます。

<長田の未来を考える有志一同>

金泰煥（韓国民団西神戸支部） 金信鏞（コリア教育文化センター） NPO 法人たかとりコミュニティセンター） 大城ロクサナ（ひょうごラテンコミュニティ） 森木和美（アジア女性自立プロジェクト） ズオン ゴック ディエップ（ベトナム夢 KOBE） 須本 エドワード 豊（ミックスルーツジャパン）
金千秋（NPO 法人エフエムわいわい） 松原マリナ（NPO 法人関西ブラジル人コミュニティ） 野路保正（神戸市立真野小学校） 中村忠司（神戸常盤大学） 森崎清登（長田区 UD 研究会） 正岡健二（NPO 法人鉄人プロジェクト） 宍田正幸（新長田まちづくり株式会社） 宮原暁（大阪大学） 吉富志津代（NPO 法人多言語センターFACIL） 松田高明（神戸市） 大野利彦（公益財団法人神戸国際協力交流センター） 森安秀和（兵庫県） 濱上章之（公益財団法人兵庫県国際交流協会） 樋口正和（兵庫県教育委員会）

<提案内容>

タイトル：まざれば「ながた」フォーエバー —多文化が息づくまち・ながたの「歴史」から「未来」へ—

歴史を学び、 知れば—

ながたの歴史スポットの洗い出し、歴史的モニュメントや建物の「ながた歴史マップ」を作成

ふたば人材センターアーカイブ写真展、カフェスペースの展示場の活用

語り継ぐための記録や場の設定と発信—「ながた館」「情報館」「歴史展」

未来をともに語り、 創造すれば—

「多文化教育特区ながた」—誰もが基礎的学力を身につけ、学びたいことを学べる環境



●AO入試などをめざす進学塾誘致／入試への外国人枠設置

●外国ルーツの子どもが日本語と母語の両方を学べる教育環境の促進

●大学生の小学校への多文化出前授業／中学生への多文化アンケートの実施など

「ながた」の中の エスニックを 発信すれば—

新しいコミュニティ産業の掘り起こし



●サイネージの再活用および無料Wi-Fiエリアの拡大などインターネットを活用

●古民家を活用したバックパッカー宿『ながたトラベルロッジ』の設置

●エスニック要素を組み入れてパッケージ化し修学旅行／フィールドスタディ・多文化コースのアピール

●「ながた芸術祭」の開催

●歴史を学び、知れば

産業＋多文化人材の視点で、歴史をひもとき記録して語り継ぐために、今あるものから掘り起こしてながたの財産の発見へ。

- ながたの歴史スポットの洗い出し、歴史的モニュメントや建物の「ながた歴史マップ」を作成
- ふたば人材センターアーカブ写真展、カフェスペースの展示場の活用
- 語り継ぐための記録や場の設定と発信
 - ・「長田館」（常に進化する活動を含む）
 - ・「情報館」（カテゴリー別にフィールドワークもできて、長田の歴史を体系的に見る）
 - ・人権に焦点をあてた「歴史展」の開催

●未来をともに語り、創造すれば

老若男女、異なる文化／習慣を持つ者たちが未来を語り、NPO 活動や社会貢献起業ができる場や機会づくり。

- 「多文化教育特区ながた」—誰もが基礎的学力を身につけ、学びたいことを学べる環境を。
 - ・AO 入試などをめざす進学塾誘致／入試への外国人枠設置
 - ・外国ルーツの子どもが日本語と母語の両方を学べる教育環境の促進
 - ・大学生の小学校への多文化出前授業／中学生への多文化アンケートの実施など

●「ながた」の中のエスニックを発信すれば

JR 新長田駅南側商店街や長田神社前商店街に設置されたサイネージの再活用および無料 Wi-Fi エリアの拡大などインターネットを活用し、ながたに人を集めるアイデアを。

- 新しいコミュニティ産業の掘り起こし
 - ・古民家を活用したバックパッカー宿『ながたトラベルロッジ』の設置
 - ・エスニック要素を組み入れてパッケージ化し修学旅行／多文化コースのアピール
 - ・「ながた芸術祭」の開催

【執筆活動】

○吉 富

- * 「外国人被災者の心理的特徴と援助」改訂版 ナーシング・グラフィカ『災害看護』2013年7月 メディカ出版
- * 日系南米人コミュニティ形成に関する一考察—ひょうごラテンコミュニティの事例から—『スペイン語世界のこ
とばと文化III』京都外国語大学スペイン語学科創設50周年記念論文集 2013年7月 京都外国語大学
- * 「コミュニティビジネスとしての医療通訳」2013年9月 『医療通訳士という仕事』 大阪大学出版会
- * 「外国人住民支援と NGO/NPO」『人の移動辞典』2013年11月25日 丸善出版
- * 「多文化共生」2014年5月 『3.11以前の社会学』生活書院
- * 「多言語情報提供から当事者の発信する場の提供へ」『自治体国際化フォーラム』2013年9月号特集記事 自治
体国際化協会
- * 「多文化、多言語の狭間で生きる子どもたちのために」トヨタ財団『JOINT』第14号（2014年1月発行）
- * 「多言語での情報発信の意義—災害時の活動から日常のまちづくりへ—」公益財団法人鳥取市人権情報センター
機関誌『架橋』30号

○日比野

- * 共著「Role of Community Radio in Post Disaster Recovery: Comparative Analysis of Japan and Indonesia」
『Disaster Recovery-Used or Misused Development Opportunity』（編者：Rajib Show、出版社：Springer）
- * 共著「Role of Community Radio in Disaster Management Reflections from Japan」『Community Practices for
Disaster Risk Reduction in Japan』（編者：Rajib Show、出版社：Springer）
- * 共著『小さなラジオ局とコミュニティの再生—3.11 から 962 日の記録』（災害とコミュニティラジオ研究会編）
大隅書店

○李

- * 「多言語での情報発信の意義—災害時の活動から日常のまちづくりへ—」（吉富&李）『架橋30号』（公益財団
法人鳥取市人権情報センター／2014年2月発行）

【講演／セミナーなど】

○吉 富：回 数=約30回

テーマ=多文化共生のまちづくり、青少年教育関連、外国人コミュニティ、通訳ボランティア研修各種（災害、
医療、行政、母子保健、学校）、行政と NPO の協働、外国人の人権、災害とコミュニティラジオ、コ
ミュニティビジネス関連、多言語情報提供関連、東日本大震災活動関連、TCC フィールドワーク系受
け入れ、など

○日比野：回 数=12回

テーマ=防災とコミュニティラジオ、災害支援報告、多文化社会とメディア、市民活動の広報力向上、市民活動
関連 など

○金千秋：回 数=約25回

テーマ=多文化共生のまちづくり、コミュニティラジオ(情報支援)、人権啓発、ジェンダー、震災防災

○村 上：回 数=7回

テーマ=多文化共生のまちづくり、外国にルーツを持つ青少年の映像発信、TCC フィールドワーク受け入れ

○李 :回 数=3回

テーマ=医療通訳派遣の取組み、「防災エクスペリエンス・ツアー」オリエンテーション・ワークショップ（補
助）、医療通訳養成、災害時通訳ボランティア登録時研修

○安 西：回 数=4回

テーマ=コミュニティ通訳ボランティア研修・基本と心構え、「防災エクスペリエンス・ツアー」オリエンテー

ション・ワークショップ（補助）、たかとりコミュニティセンター／多文化プロキューブ・グループとのかかわり（関西学院大学情報制作演習ヒアリング対応）、災害時通訳ボランティア登録時研修、災害時通訳ボランティア登録時研修

【非常勤講師など】

○吉 富

＊大阪大学(常勤)

(「グローバルコラボレーションの理論と実践」「海外フィールドスタディ」「医療通訳とコミュニティ」)

＊関西大学（プロフェッショナルリーディング「スペイン・ラテンアメリカ編」、専門導入ゼミ「多文化共生」）

＊京都外国語大学（「NGOとNPO活動入門」「コミュニティビジネス」「外国人コミュニティとエスニックメディア」（プロジェクト科目）

＊関西学院大学（学際トピックス「多文化共生」）

＊同志社大学大学院（国際協力NGO論研究）

○日比野

＊神戸親和女子大学通信教育学部非常勤講師（多文化社会）

＊神戸学院大学学際教育機構防災・社会貢献ユニット客員教授（地域コミュニティ学）

○金千秋

＊関西学院大学総合政策学部山中速人研究室ゼミ2年（メディアの演習）

＊神戸常盤大学看護学科（外国語コミュニケーションⅡ）

＊神戸常盤大学幼児教育学科（多文化コミュニケーション）

＊日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）（海外学術調査）

＊「復興・防災まちづくりとジェンダー～生活再建と制度設計に関する国際比較研究～」協力委員

○村 上

＊関西学院大学（人権教育科目「多文化社会と人権」）

③関連団体運営への関わり

○吉 富

＊たかとりコミュニティセンター常務理事

＊NGO神戸外国人救援ネット 設立メンバー／運営委員

＊ベトナム夢KOBET運営委員

＊兵庫県外国人県民共生会議メンバー

＊特定非営利活動法人CODE 海外災害援助市民センター理事

＊公益財団法人兵庫県人権啓発協会 人権問題研究アドバイザー

＊ひょうご市民活動協議会 共同代表

＊株式会社マイチケット（国土交通大臣登録旅行業961号）顧問

＊兵庫県「若人の賞」審査委員

＊特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会理事

＊兵庫県県民生活審議会委員

＊公益財団法人箕面市国際交流協会評議員

＊兵庫県長期ビジョン審議会委員

＊移民政策学会常任理事（企画委員長）

＊西日本地区入国者収容所等視察委員

○日比野

＊NPO 法人たかとりコミュニティセンター専務理事

- *ベトナム夢 KOBE 運営委員
- *公益財団法人神戸国際協力交流センター理事
- *NGO 神戸外国人救援ネット 設立メンバー/運営委員
- *NPO 広報力向上委員会委員
- *ひょうご市民活動協議会運営委員
- *世界コミュニティラジオ放送連盟 (AMARC) アジア太平洋地域理事

○金千秋

- *神戸市区民まちづくり会議委員
- *神戸ドキュメンタリー映画祭実行委員
- *神戸長田ユニバーサルデザイン研究会役員
- *ホワイトトリボンキャンペーン委員
- *ON-PAM(舞台芸術制作者オープン・ネットワーク委員)

○村 上

- *神戸大学学生支援GP「地域に根ざし人に学ぶ共生的人間力」運営委員
- *特定非営利活動法人遊び雲 監事

④物品販売・レコード販売

DVD や CD の売り上げは伸びず、年間 5 万円にとどまった。一方、アジア女性自立プロジェクトを通してフェアトレード製品であるインドネシアのバティックを使った FM わいわいのロゴ入り、シャツ、ブックカバー、ハンダナの製品化に取り組んだ。販売は 2014 年度から開始する。

プロキューブの確実な収入とすべく、業務の合間を縫い繁忙期を避けオークションに参加するよう努めた。取引成立率はシングルが約 80%、LP が約 60%程度と思われる。ヤフーオークションの評価ポイントも着実に上昇し、優良出品者として認識されている。

2013 年度売上実績：¥702,605 283 件 (5 月～9 月)

2012 年度売上実績：¥366,425

2011 年度売上実績：¥550,477

⑤TCC

- ◆たかとりコミュニティセンターの事務局業務を FACIL で受託。
- ◆TCC-ICT 委員会の中心的メンバーとして参加。

⑥その他、受賞など

○FACIL

- *2013 年度 (平成 25 年度) KOBE ソーシャルビジネスマーク認証 (「コミュニティ翻訳・通訳を通じた多言語環境の促進」事業)

○吉富

- *2013 年 5 月 兵庫県功労賞 (国際協力) 受賞 (個人)
- *2013 年 6 月 文化庁長官表彰 (個人)